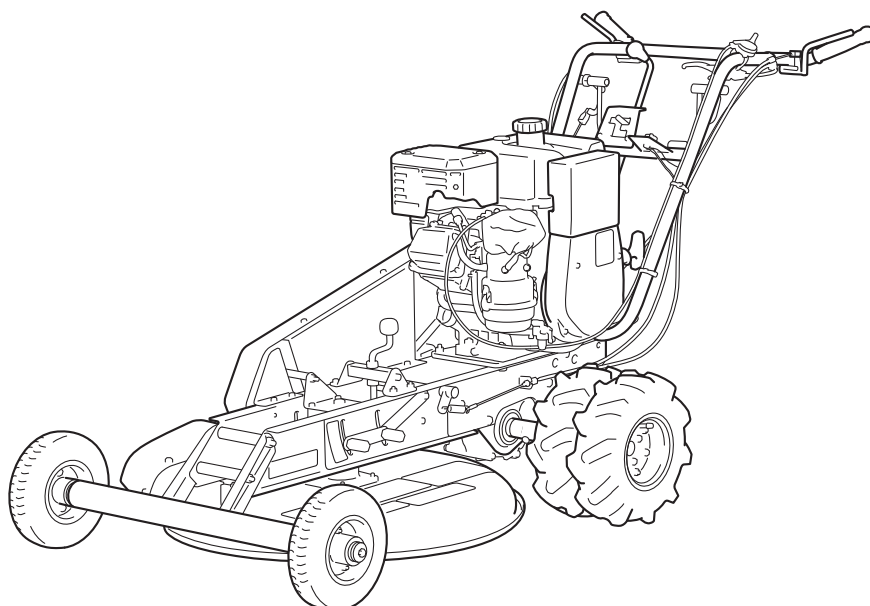


GM65BW

自走ロータリーモア

取扱説明書



Serial No. GM65BW : 30001-

「必読」
ご使用前に必ず本書をお読みください。

BARONESS[®]
Quality on Demand

Ver.1.0

ごあいさつ

このたびは、パロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本書は、本機の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。

機械をご使用になる前に必ず本書をお読みいただき、内容を十分にご理解の上、ご使用ください。

いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

本書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

本機を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

本書に無い保守、整備などは決して行わないでください。

エンジン・バッテリーなどの取扱説明書も必ずお読みください。

整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店、販売店または、弊社におたずねください。

お問い合わせの際には、必ず本機の型式と製造番号をお知らせください。

本機を貸与または、譲渡する場合は本機と一緒に本書をお渡しください。

株式会社 共栄社

注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。
部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。
純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。



696cq5-001

危険警告記号

この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。

いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。

これらを遵守されない場合、事故につながる恐れがあります。

危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。

警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。

注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのある、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。

重要

製品の構造などの注意点を示しています。

はじめに

使用目的

本機は、ゴルフ場や公園などの芝草刈り作業を目的とした機械です。

この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。

本機をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

また、本機は特殊自動車の型式認定を取得していませんので、一般道路は走行できません。

安全	Page 1-1
安全上の注意事項	Page 1-2
廃棄	Page 2-1
リサイクルおよび廃棄処分	Page 2-2
製品概要	Page 3-1
仕様	Page 3-2
各部の名称	Page 3-3
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-4
取り扱い説明	Page 4-1
使用前の準備	Page 4-2
使用前の点検	Page 4-2
締め付けトルク	Page 4-8
使用前の調整	Page 4-10
エンジン始動・停止方法	Page 4-10
各部の操作方法	Page 4-13
移動	Page 4-18
刈り込み	Page 4-18
運搬	Page 4-19
メンテナンス	Page 5-1
メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンス時の機械姿勢	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-3
注油	Page 5-5
ジャッキアップ	Page 5-6
メンテナンス・モア	Page 5-7
メンテナンス・本体	Page 5-11
長期保管	Page 5-17

安全上の注意事項 Page 1-2

トレーニング Page 1-2

運転の前に Page 1-2

運転操作 Page 1-2

保守と保管 Page 1-4

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

⚠ 危険

本機は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転、検査を重ねた上で出荷しております。
事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。
機械を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながる恐れがあります。
以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項

以下の注意事項は、CEN 規格 EN 836:1997、国際規格 ISO 5395:1990 および米国規格 ANSI B71.4 - 2004 より指示されているものを含んでいます。

トレーニング

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。
各部の操作方法や警告ラベル、本機の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。
トレーニングはオーナーの責任です。
4. 正しい運転知識の無い方には機械を操作させないでください。
地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレーターの注意によって事故を防止することができます。
6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。

運転の前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリやアタッチメントが必要かを判断してください。
メーカーが認めた以外のアクセサリやアタッチメントを使用しないでください。

2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。
長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。
また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

燃料は引火性が高いため、以下の注意を必ず守ってください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
- [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。
エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油をしない。
- [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は火気厳禁とする。
喫煙しない。
- [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
- [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。
5. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。
これらが正しく機能しないときには作業を行わないでください。
6. ブレーキの効きが悪かったり、ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
7. マフラーが破損したら必ず交換してください。
8. 使用前にナイフ、ナイフ取り付けボルト、ナイフアッセンブリを目視で点検してください。
バランスを狂わせないようにするために、損傷したナイフとボルトはセットで交換してください。

運転操作

1. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
2. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。

3. エンジンを始動する前に作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかけてください。
4. 取扱説明書の指示に従い、刃から足を十分離れた状態でエンジンを始動させてください。
5. できるだけ、濡れた草地での運転を避けてください。
6. 傾斜地では常に足元に注意してください。
7. 走らないでください。
8. 「安全な斜面」はありません。
草の生えたの斜面での作業には特に注意が必要です。
転倒を防ぐために
 - [1] 極端に急な傾斜地では作業をしない。
 - [2] 斜面では急停止、急発進しない。
 - [3] 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。
また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
 - [4] 斜面の走行や旋回は低速で行う。
 - [5] 凸凹や穴、隠れた障害物がないか常に注意する。
 - [6] 斜面を横切りながらの作業は、そのような作業のために設計された機械以外では絶対に行わない。
 - [7] 決められた角度以上の傾斜地または転倒やスリップの危険がある場所では、絶対に作業を行わない。
9. ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のまま運転しないでください。
インターロック装置は絶対に取り外さないでください。
正しく調整した状態で使用してください。
10. 絶対に放出用防護カバーを上げたまま、または取り外したり、改造して運転しないでください。
11. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。
エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身事故を起こす危険が増大します。
12. 高温部に触れないように注意してください。
13. 運転位置を離れる場合は次を厳守してください。
 - [1] 平らな場所に停止する。
 - [2] 作業部の動力を遮断する。
 - [3] 走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかける。
 - [4] エンジンを止める。
14. 以下のような状況になった場合には、エンジンを止めてください。
 - [1] 燃料を給油するとき。
 - [2] 刈高を調整するとき。
ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
 - [3] 詰まりを取り除くとき。
 - [4] 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
 - [5] 機械を離れるとき。
 - [6] 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。
機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
15. 作業部や回転部に手足を近づけないでください。
16. エンジン作動中は、機械を持ち上げたり、運んだりしないでください。
17. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
18. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
19. 旋回するとき、管理道路やカート道、歩道を横断するときは減速し、周囲に十分注意してください。
20. 草地以外の場所では、刃の回転を停止してください。
21. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業部への駆動を止めてください。
22. アタッチメントなどを使用する場合、排出方向などに気をつけ、人に向けてないようにしてください。
また作業中は機械に人を近づけないでください。
23. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
24. 本機をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、本機の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
25. 本機を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。

26. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
27. わき見運転、手放し運転はしないでください。
28. エンジン停止中はスロットルを「LOW」（かめマーク側）にしておいてください。
燃料コックが付いている場合は、燃料コックを閉じてください。

保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業部の駆動を遮断し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、念のために点火プラグからワイヤーを抜いてください。また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し作業を行ってください。
2. 火災防止のため、エンジンやマフラー、燃料タンクの周囲、作業部の周囲、および駆動部に、余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。
オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
3. 閉めきった場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
4. 本機にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
5. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
6. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
7. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
8. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
9. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
10. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
11. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
12. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
13. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
14. ナイフの点検を行うときには、安全に十分注意してください。

[1] 必ず手袋を着用してください。

[2] 悪くなったナイフは必ず交換してください。

- [3] 絶対に曲げ伸ばしや溶接で修理しないでください。
15. 可動部に手足を近づけないでください。
エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
16. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
17. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
18. 燃料タンクの清掃が必要になった場合は、屋外で作業を行ってください。

リサイクルおよび廃棄処分Page 2-2

リサイクルについて Page 2-2

廃棄処分についてPage 2-2



リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。
また、地域によっては法律により義務付けられています。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。
(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

仕様	Page 3-2
仕様表	Page 3-2
各部の名称	Page 3-3
機番プレート	Page 3-3
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-4
警告ラベルと指示ラベルについて	Page 3-4
警告ラベル・指示ラベル貼付位置	Page 3-4
警告ラベル・指示ラベルの説明	Page 3-5

製品概要

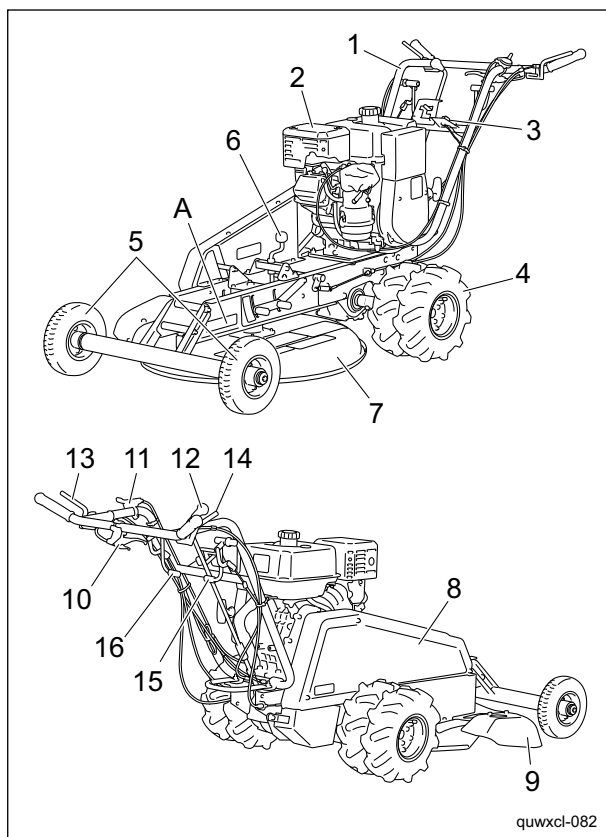
仕様

仕様表

型式	GM65BW		
寸法	全長	170 cm	
	全幅	92 cm	
	全高	80 cm	
質量（燃料タンク空）	132 kg		
最小回転半径	-		
エンジン	型式	三菱 GB290PN	
	種類	空冷4サイクル傾斜形横軸 OHV ガソリンエンジン	
	総排気量	296 cm ³ (0.296 L)	
	最大出力	5.8 kW (8.0 PS) /3,600 rpm	
燃料タンク容量	ガソリン 6.0 dm ³ (6.0 L)		
燃料消費率	320 g/kW・h (定格出力時)		
エンジンオイル容量	1.0 dm ³ (1.0 L)		
作業幅（刈幅）	63 cm		
作業範囲（刈高）	20.0 - 80.0 mm		
ナイフ	1 枚（直刃）		
駆動方式	メカ切り替え方式		
速さ（HST）	前進	-	
	後進	-	
速さ（メカ）	前進	低速	2.5 km/h
		高速	4.0 km/h
	後進		1.9 km/h
	能率	2,016 m ² /h (4.0 km/h x 刈幅 x 0.8)	
使用最大傾斜角度	25 度		
タイヤサイズ	前輪	2.50 - 4	
	後輪	3.50 - 5 (ラグ付ダブル車輪)	
タイヤ空気圧	前輪	350 kPa (3.5 kgf/cm ²)	
	後輪	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)	
バッテリー	-		

出荷時のエンジン最高回転速度は、3,900±100 rpm

各部の名称

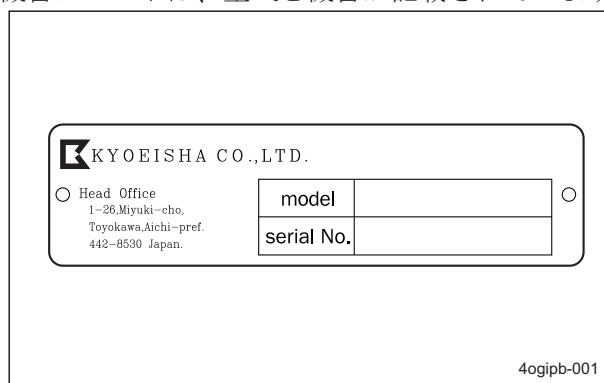


各部の名称_001

1	ハンドル
2	エンジン
3	エンジンスイッチ
4	後輪タイヤ
5	前輪タイヤ
6	刈高調節ハンドル
7	刈刃カバー
8	ベルトカバー
9	防護カバー
10	駐車ブレーキレバー
11	スロットルレバー
12	チェンジレバー
13	操向クラッチレバー (左)
14	操向クラッチレバー (右)
15	走行主クラッチレバー
16	刈刃主クラッチレバー
A	機番プレート

機番プレート

機番プレートは、型式と機番が記載されています。



機番プレート_001

製品概要

警告ラベルと指示ラベル

警告ラベルと指示ラベルについて

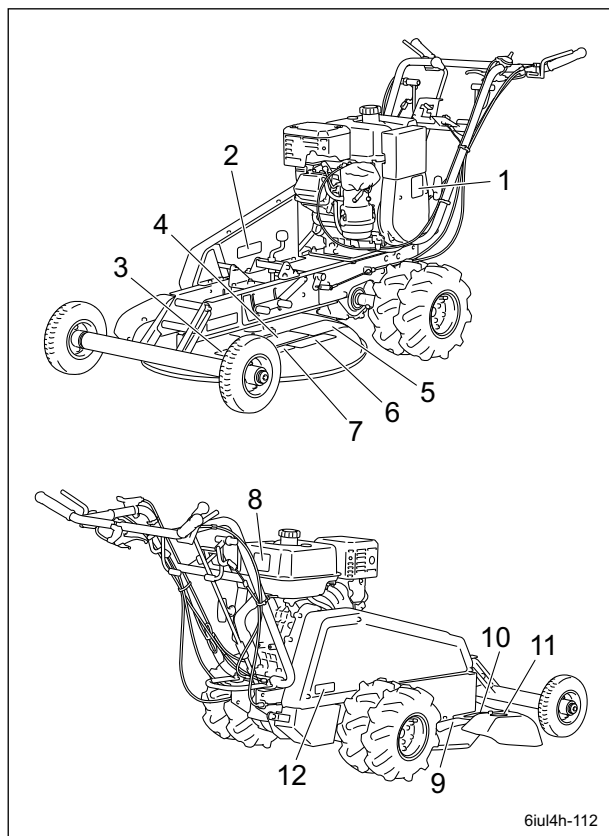
警告

本機には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。
ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されております。

購入販売店または弊社に注文してください。

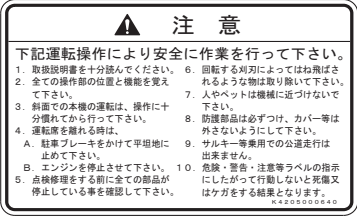
警告ラベル・指示ラベル貼付位置



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_001

1	指示プレート
2	ベルト回転物注意マーク
3	運転前の注意事項ラベル
4	ロータリーナイフ注意事項
5	急傾斜地作業注意事項 (1)
6	刈高締付注意マーク
7	エンジン注意プレート小
8	クラッチ注意事項
9	ロータリーモア危険マーク
10	カバー取付注意マーク
11	吹出口危険マーク
12	ベルト表示ラベル

警告ラベル・指示ラベルの説明

1	 <p>qigqnx-127</p>	<p>K4205000540 指示プレート オーバーヒート防止の注意事項について記載されています。</p>
2	 <p>qigqnx-005</p>	<p>K4205000670 ベルト回転物注意マーク</p>  <p>回転物注意-エンジン回転中はベルトに手を近づけないでください。</p>
3	 <p>qigqnx-128</p>	<p>K4205000640 運転前の注意事項ラベル 運転操作の注意事項について記載されています。</p>
4	 <p>qigqnx-129</p>	<p>K4205000940 ロータリーナイフ注意事項 使用上の注意事項（ロータリーナイフ）について記載されています。</p>
5	 <p>qigqnx-130</p>	<p>K4205000430 急傾斜地作業注意事項（1） 急傾斜地作業の注意事項について記載されています。</p>

製品概要

6	 <p>qigqnx-131</p>	<p>K4205000490 刈高締付注意マーク 刈高調整時の注意事項について記載されています。</p>
7	 <p>qigqnx-132</p>	<p>K4205000730 エンジン注意プレート小 エンジンの注意事項について記載されています。</p>
8	 <p>qigqnx-099</p>	<p>K4205000650 クラッチ注意事項 クラッチの注意事項について記載されています。</p>
9	 <p>qigqnx-133</p>	<p>K4205000350 ロータリーモア危険マーク 使用上の注意事項（ロータリーモア）について記載されています。</p>
10	 <p>qigqnx-134</p>	<p>K4205000480 カバー取付注意マーク カバーの注意事項について記載されています。</p>

11	 <p style="text-align: right;">qiqqnx-135</p>	<p>K4205000700 吹出口危険マーク</p> <p>危険</p> <p>手を切る-刃が回転中は手を近づけないでください。</p>															
12	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="4">Vベルト</td> <td>GM65BW-0803Z0</td> </tr> <tr> <td>走行用</td> <td>K2346033000</td> <td>VベルトLB33AG-6A</td> <td>1本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ナイフ用</td> <td>K2346061000</td> <td>VベルトLB61AG-6A</td> <td>1本</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">qiqqnx-136</p>	Vベルト				GM65BW-0803Z0	走行用	K2346033000	VベルトLB33AG-6A	1本		ナイフ用	K2346061000	VベルトLB61AG-6A	1本		<p>GM65BW-0803Z0 ベルト表示ラベル</p> <p>各部で使用しているVベルトの仕様について記載されています。</p>
Vベルト				GM65BW-0803Z0													
走行用	K2346033000	VベルトLB33AG-6A	1本														
ナイフ用	K2346061000	VベルトLB61AG-6A	1本														

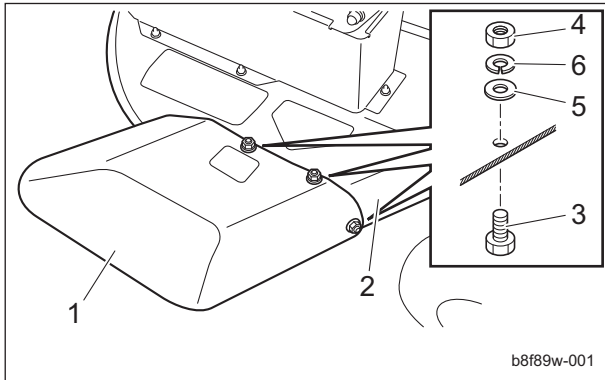
使用前の準備	Page 4-2	移動操作	Page 4-18
防護カバーの取り付け	Page 4-2	刈り込み	Page 4-18
エアクリーナーオイルの補給	Page 4-2	傾斜地作業について	Page 4-18
動作確認	Page 4-2	急傾斜地作業について	Page 4-18
使用前の点検	Page 4-2	刈り込み操作	Page 4-19
ロータリーナイフ	Page 4-2	運搬	Page 4-19
カバー	Page 4-3	運搬方法	Page 4-19
ベルト	Page 4-3		
エアクリーナー	Page 4-3		
エアークリーナーカバー	Page 4-4		
タイヤ	Page 4-4		
ブレーキ	Page 4-4		
クラッチ	Page 4-5		
ワイヤー	Page 4-5		
エンジン	Page 4-5		
エンジンオイル	Page 4-5		
燃料	Page 4-6		
油漏れ	Page 4-7		
締め付けトルク	Page 4-8		
標準締め付けトルク	Page 4-8		
重要締め付けトルク	Page 4-9		
使用前の調整	Page 4-10		
刈高の調整	Page 4-10		
エンジン始動・停止方法	Page 4-10		
エンジン始動・停止	Page 4-10		
各部の操作方法	Page 4-13		
機械操作上の注意	Page 4-13		
機械を離れるときの注意	Page 4-13		
操作ラベルの説明	Page 4-13		
エンジンスイッチ	Page 4-16		
ブレーキレバー	Page 4-16		
走行主クラッチレバー	Page 4-16		
チェンジレバー	Page 4-17		
刈刃主クラッチレバー	Page 4-17		
操向クラッチレバー	Page 4-18		
移動	Page 4-18		

取り扱い説明

使用前の準備

防護カバーの取り付け

1. 防護カバーを刈刃カバーにボルト、ナットで取り付けてください。
2. ボルト、ナットを確実に締め付けてください。



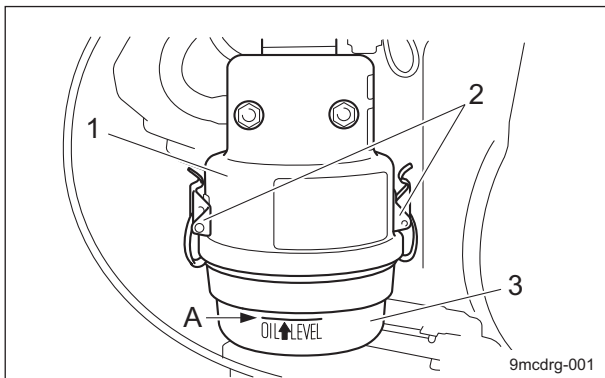
防護カバーの取り付け_001

1	防護カバー
2	刈刃カバー
3	ボルト
4	ナット
5	ワッシャー
6	Sワッシャー

エアクリナーオイルの補給

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。
エアクリナーには、防塵のためオイルを使用しています。

1. キャッチクリップを外し、オイルパンを取り外してください。
2. オイルパンのオイルレベル線まで、オイルを入れてください。
参考：
オイルはエンジンオイルと同じものを使用してください。
3. オイルパンを取り付け、キャッチクリップで確実に固定してください。



エアクリナーオイルの補給_001

1	エアクリナー
2	キャッチクリップ
3	オイルパン
A	オイルレベル線

動作確認

1. ブレーキが完全に動作するか確認してください。
2. 走行主クラッチレバー、チェンジレバー、刈刃主クラッチレバー、操向クラッチレバーが完全に動作するか確認してください。
3. 調整が必要な場合は、調整を行ってください。

使用前の点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず使用前の点検をしてください。

ロータリーナイフ

ロータリーナイフの点検

⚠ 危険

ロータリーナイフは刃物です。
手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切る恐れがありますので、手袋を着用してください。

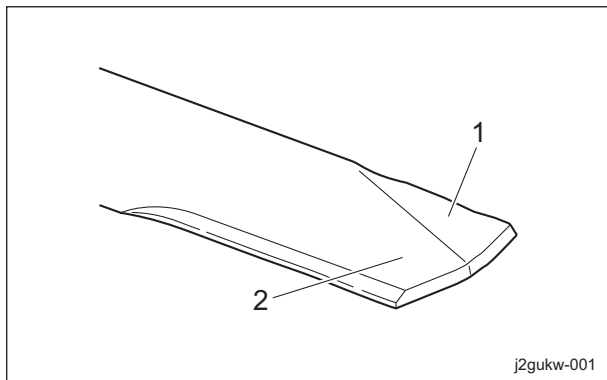
使用頻度や作業中の異物のかみ込み、移動中での損傷などにより、バランスが崩れて振動が出たり、切れ味が悪くなることがあります。
点検をし、必要に応じてロータリーナイフを研磨、およびバランス取り、または交換をしてください。

重要

乾燥した土や砂を含んだ場所での使用は、ロータリーナイフの摩耗が早いため、頻繁に点検をしてください。

1. ロータリーナイフが曲がっていないか確認してください。
2. ロータリーナイフが欠けていないか確認してください。
3. ロータリーナイフの摩耗量を確認してください。
4. ロータリーナイフが片減りしていないか確認してください。

- ロータリーナイフの取り付けボルトが緩んでいないか確認してください。
- ロータリーナイフのセイル部と平坦部との間に割れ目やちぎれがないか確認してください。



ロータリーナイフの点検_001

1	セイル部
2	平坦部

カバー

カバーの点検

⚠ 注意

点検時に防護カバーを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。防護カバーが取り外されていると、異物が飛散してケガをする恐れがあります。

- ロータリーカバーおよび防護カバーなどに磨耗や劣化がないか確認してください。
- ロータリーカバーおよび防護カバーなどに破損がないか確認してください。
- ロータリーカバーおよび防護カバーなどに変形による可動部への干渉がないか確認してください。
- 防護カバーなどが所定の位置に取り付けられているか確認してください。

ベルト

ベルトの点検

⚠ 注意

ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。

⚠ 注意

点検時にカバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れて、ケガをする恐れがあります。

- ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
- 亀裂、損傷、異常摩耗が無いか確認してください。

エアクリーナー

エアクリーナーの点検

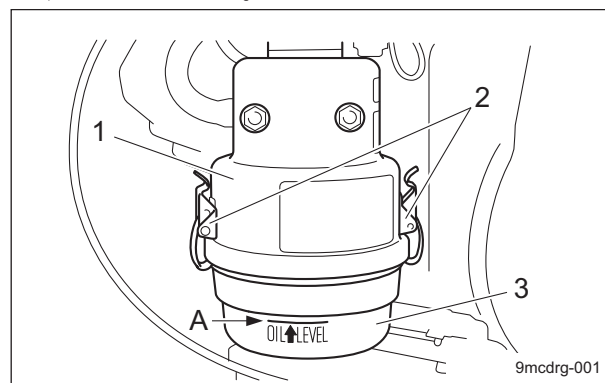
エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

エアクリーナーは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダーライナー、ピストンリングの摩耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

エアクリーナーには、防塵のためオイルを使用しています。

- エアクリーナーに損傷が無いか確認してください。
- エアクリーナーエレメントに汚れが無いか確認してください。
- オイルがオイルレベル線まで入っているか確認してください。



エアクリーナーの点検_001

1	エアクリーナー
2	キャッチクリップ
3	オイルパン
A	オイルレベル線

取り扱い説明

エアクリーナーの清掃

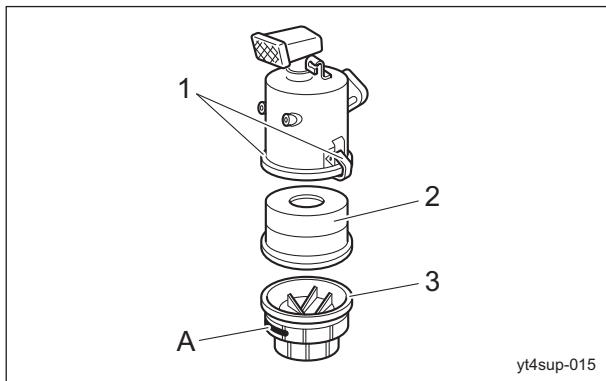
エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。
エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

1. キャッチクリップを外し、オイルパンを取り外してください。
2. エアクリーナーエレメントを取り外してください。

重要

エアクリーナーエレメントは、破損や汚れがある場合は交換してください。

3. エアクリーナーエレメントは、洗油（白灯油）で洗浄後、エンジンオイルに浸し、滴下しない程度に絞ってください。
4. オイルパンは、洗油（白灯油）で洗浄後、オイルをオイルレベル線まで入れてください。
参考：
オイルはエンジンオイルと同じものを使用してください。
5. エアクリーナーエレメントを取り付けてください。
6. オイルパンを取り付けてください。



エアクリーナーの清掃_001

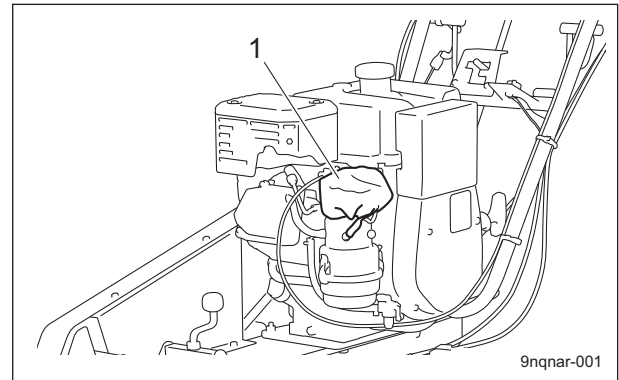
1	キャッチクリップ
2	エアクリーナーエレメント
3	オイルパン
A	オイルレベル線

エアークリーナーカバー

エアークリーナーカバーの点検

1. エアクリーナーにカバー（布袋）が確実にかぶっているか確認してください。

2. カバーの汚れがひどい場合は、新品と交換してください。



エアークリーナーカバーの点検_001

1	エアークリーナーカバー
---	-------------

タイヤ

タイヤの点検

1. タイヤの空気圧を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常摩耗が無いか確認してください。

	タイヤサイズ	空気圧
前輪	2.50 - 4	350 kPa (3.5 kgf/cm ²)
後輪	3.50 - 5	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)

ブレーキ

ブレーキの点検

⚠ 危険

ブレーキワイヤーに亀裂、破損が無いことを確認してください。
亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

⚠ 注意

機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

1. ブレーキレバーを握り、ブレーキが完全に動作するか確認してください。
2. ロックレバーを操作し、ブレーキレバーをロックできるか確認してください。
3. ブレーキレバーを戻したとき、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。

クラッチ

クラッチの点検

1. クラッチレバーを操作し、クラッチが完全に動作するか確認してください。
2. クラッチレバーの作動状態が良好か確認してください。

ワイヤー

ワイヤーの点検

1. ワイヤーに亀裂、破損が無いことを確認してください。
2. 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

エンジン

エンジン周りの点検

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

1. 燃料系の部品は、取り付け部に緩みやひび割れ、漏れが無いか確認し、必要があれば交換してください。
2. マフラーやマフラーの周りに芝草や可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹き付けて清掃してください。

エンジンオイル

エンジンオイルの点検

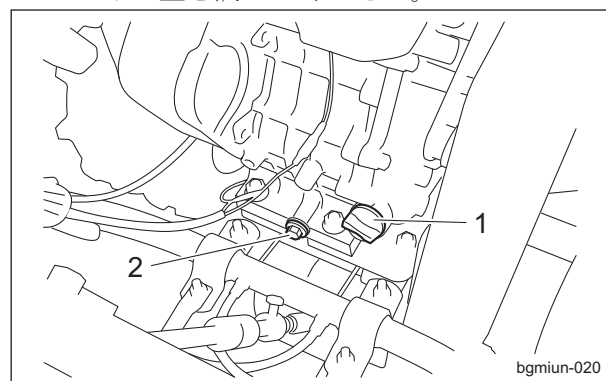
エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、10 - 20 分後に行ってください。

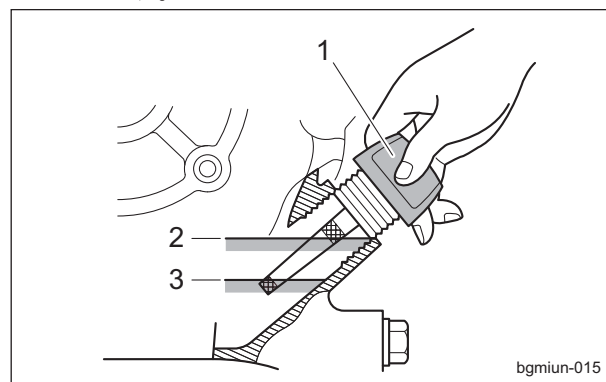
2. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



エンジンオイルの点検_001

1	オイルレベルゲージ (オイル注入口)
2	ドレンプラグ

3. エンジンオイル量が上限と下限の間であれば適量です。



エンジンオイルの点検_002

1	オイルレベルゲージ
2	上限
3	下限

取り扱い説明

エンジンオイルの補給

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

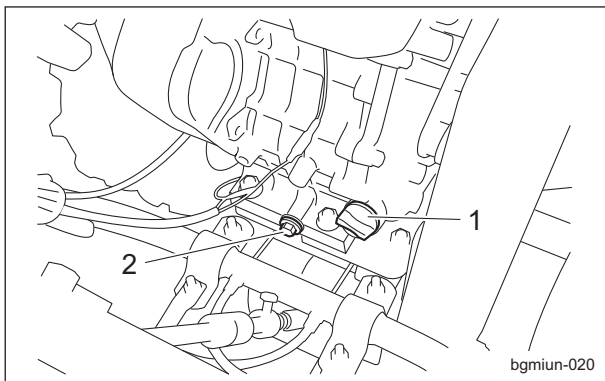
重要

エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

1. オイルレベルゲージを取り外してください。
2. オイル注入口から新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限になるまでエンジンオイルを入れてください。
3. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。
4. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。



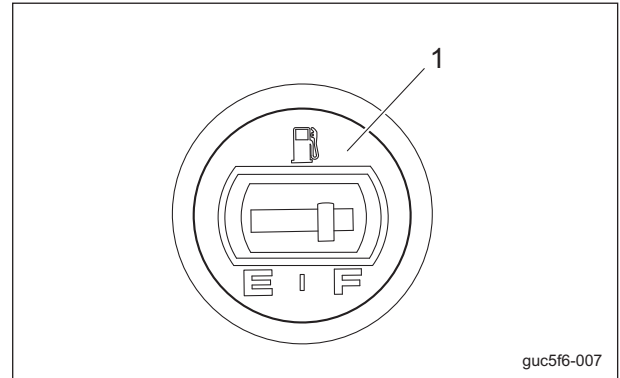
エンジンオイルの補給_001

1	オイルレベルゲージ (オイル注入口)
2	ドレンプラグ

燃料

燃料の点検

機械を水平な状態にし、燃料タンク上の燃料ゲージにて、量の確認をしてください。



燃料の点検_001

1	燃料ゲージ
---	-------

燃料の給油

⚠ 危険

燃料ゲージの FULL の位置以上に給油はしないでください。
燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時などにタンクキャップより燃料があふれる可能性があります。

⚠ 警告

燃料給油時は、火気厳禁です。
喫煙しないでください。

⚠ 警告

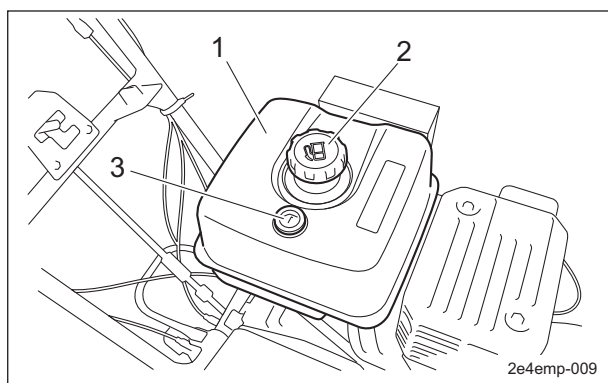
燃料の給油はエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。

⚠ 注意

高温部に触れないように注意してください。

燃料タンク上の燃料ゲージが、EMPTY に近づいたら早めに燃料（ガソリン）の給油を行ってください。

燃料タンク容量は、約 6.0 dm³ (6.0 L) です。



燃料の給油_001

1	燃料タンク
2	タンクキャップ
3	燃料ゲージ

油漏れ

各部油漏れの点検

本機を 50 時間くらい使用すると、締め付け部の緩みなどが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性があります。

必ず増し締めを行ってください。

機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無いか確認してください。

取り扱い説明

締め付けトルク

標準締め付けトルク



ボルト、ねじ類

重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。
使用初期はボルト、ナットなどの緩みが出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

特別指示の無いボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。
締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。
締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。
一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。
めねじの強度が弱い場合は適用できません。
さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。
所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。
ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。
「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。
ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。
締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。
一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。
インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。
できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

呼び径	一般ボルト		
	強度区分 4.8		
			
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
						
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	—	—	—	530	5,404.41	4,691.03
M24	—	—	—	670	6,831.99	5,930.17
M27	—	—	—	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	—	—	—	1,340	14,628.78	11,860.34

参考：

「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

重要締め付けトルク

機種別締め付けトルク

GM65BW

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

部位	コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み止め剤
			N-m	kgf-cm	lb-in	
刈刃部	K0160000142	18 特殊ナット P1.5	155 - 165	1,580.54 - 1,682.51	1,371.91 - 1,460.42	—
	K0160000152	18 特殊袋ナット P1.5	155 - 165	1,580.54 - 1,682.51	1,371.91 - 1,460.42	—
	K0071000921	12 調質ボルト 21	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1,186.03	—
エンジン部	K0000100502	10 ボルト 50	-	-	-	○
	K0000100452	10 ボルト 45	-	-	-	○
ミッション部	K1420000072-Y	M8 特殊廃油栓	13	132.56	115.06	—

取り扱い説明

使用前の調整

刈高の調整

刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

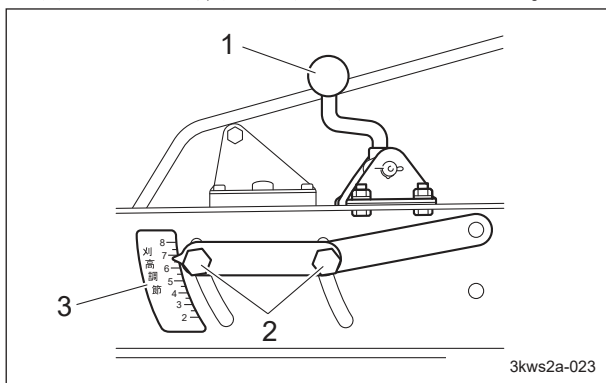
⚠ 注意

刈高調整はエンジンを停止して、すべての駆動が停止していることを確認してから行ってください。

重要

セット刈高のため実際の刈高とは異なります。

1. 締付ボルトを緩めてください。
2. 調節ハンドルを回し、任意の刈高に設定してください。
3. 締付ボルトを確実に締め付けてください。



刈高の調整_001

1	調節ハンドル
2	締付ボルト
3	刈高標示マーク

エンジン始動・停止方法

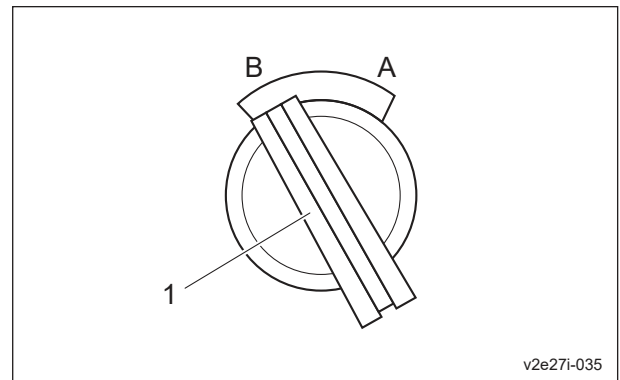
エンジン始動・停止

エンジン始動手順

⚠ 警告

エンジンを始動する前に機械や周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

1. エンジンスイッチが「OFF」になっていることを確認してください。

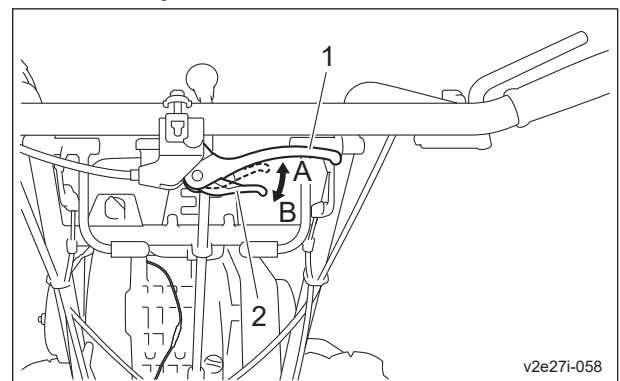


v2e27i-035

エンジン始動手順_001

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

2. ブレーキがロックされていることを確認してください。

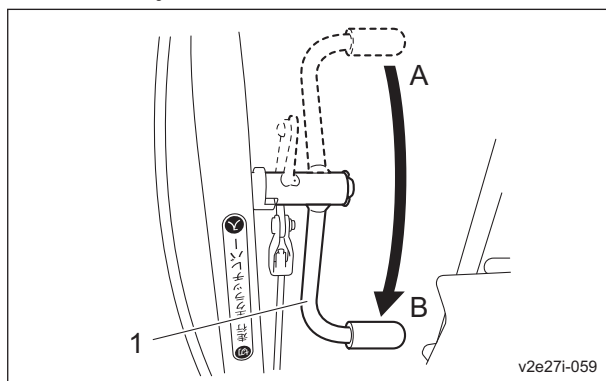


v2e27i-058

エンジン始動手順_002

1	ブレーキレバー
2	ロック解除レバー
A	ロック解除
B	ロック

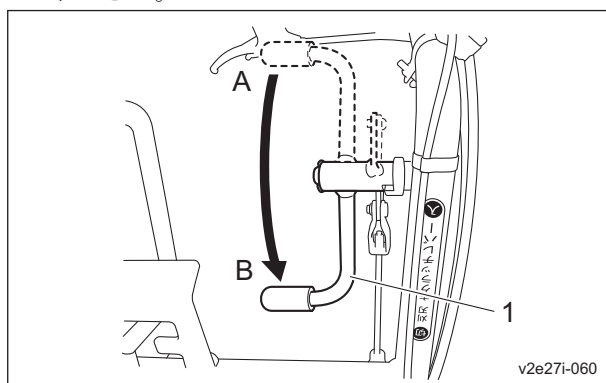
3. 走行主クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン始動手順_003

1	走行主クラッチレバー
A	「入」
B	「切」

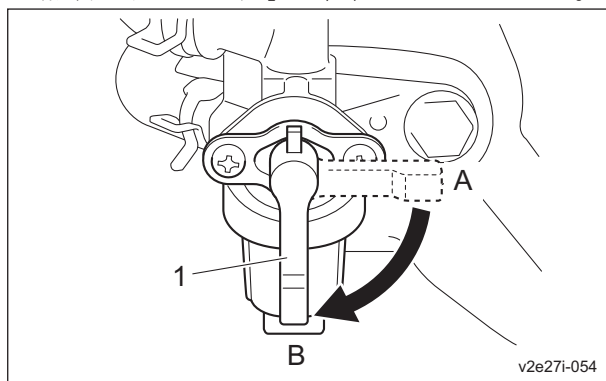
4. 刈刃主クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン始動手順_004

1	刈刃主クラッチレバー
A	「入」
B	「切」

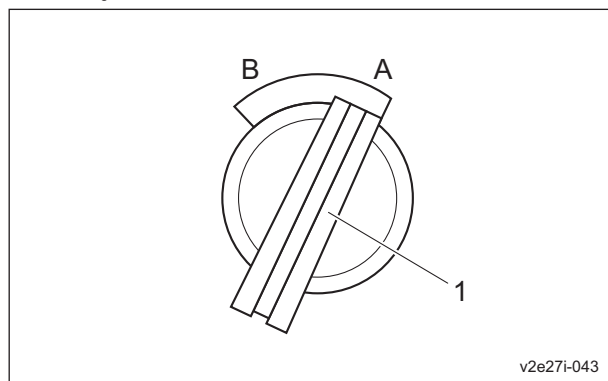
5. 燃料コックを「開」の位置にしてください。



エンジン始動手順_005

1	燃料コック
A	「閉」
B	「開」

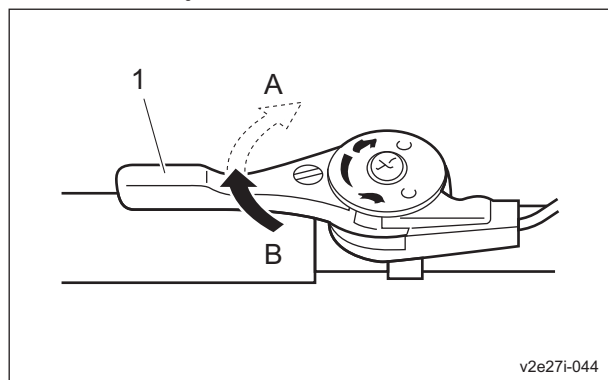
6. エンジンスイッチを「ON」の位置にしてください。



エンジン始動手順_006

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

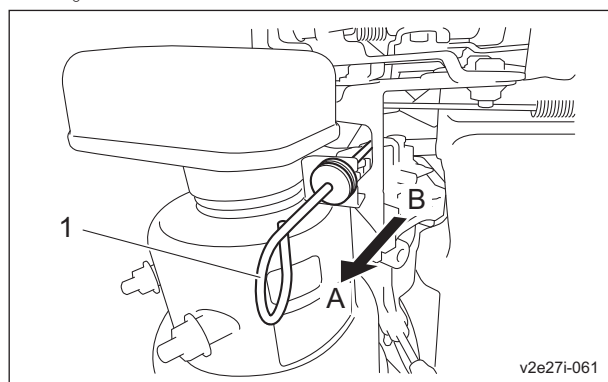
7. スロットルレバーをかめマーク側（低速）から半分程度うさぎマーク側（高速）へ動かしてください。



エンジン始動手順_007

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

8. チョークレバーをいっぱいまで引いてください。

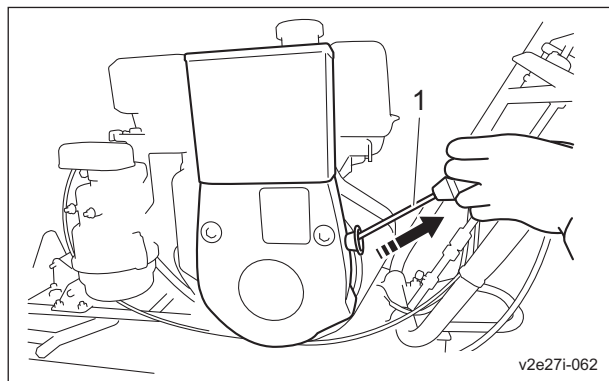


エンジン始動手順_008

取り扱い説明

1	チョークレバー
A	「閉」
B	「開」

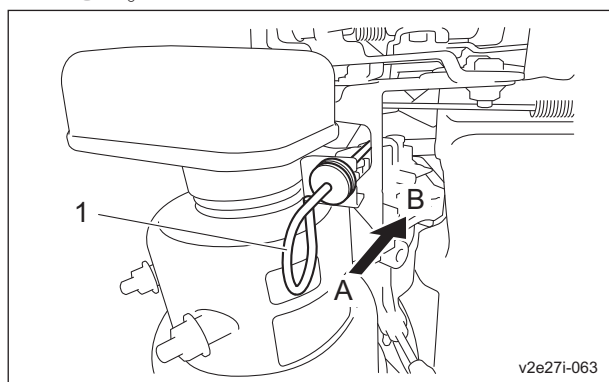
9. リコイルスターターを引き、エンジンを始動してください。



エンジン始動手順_009

1	リコイルスターター
---	-----------

10. チョークレバーをいっぱいまで押し込んでください。

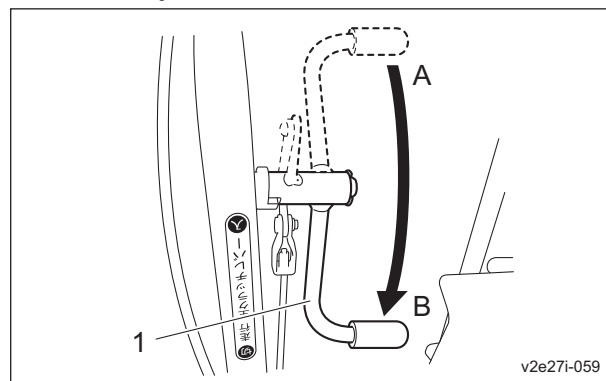


エンジン始動手順_010

1	チョークレバー
A	「閉」
B	「開」

エンジン停止手順

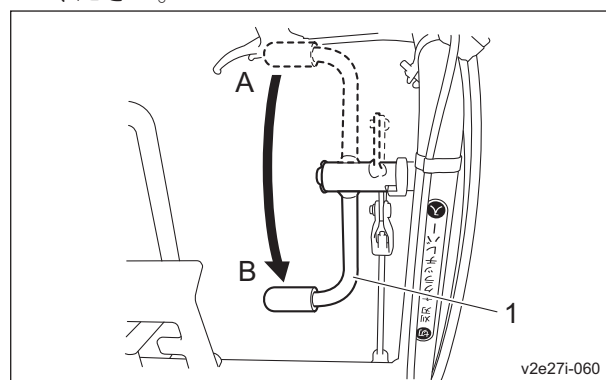
1. 走行主クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン停止手順_001

1	走行主クラッチレバー
A	「入」
B	「切」

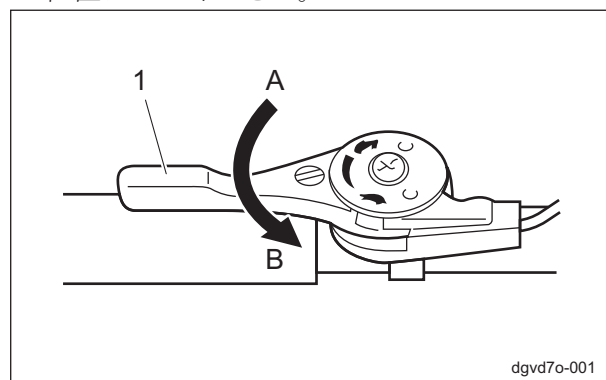
2. 刈刃主クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン停止手順_002

1	刈刃主クラッチレバー
A	「入」
B	「切」

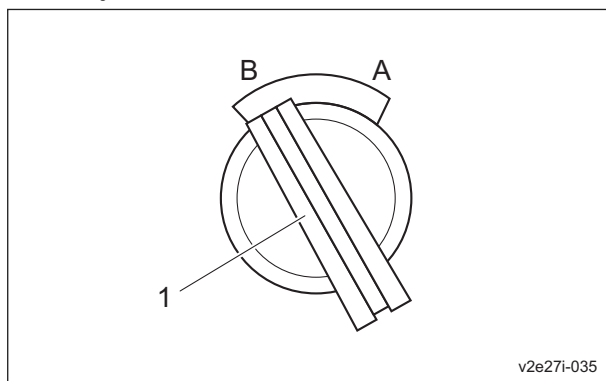
3. スロットルレバーをかめマーク側（低速）の位置にしてください。



エンジン停止手順_003

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

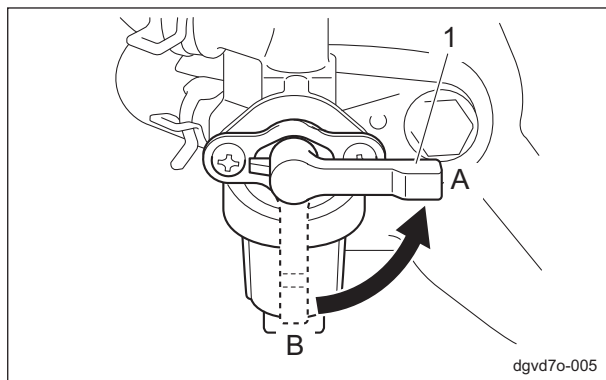
4. エンジンスイッチを「OFF」の位置にしてください。



エンジン停止手順_004

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

5. 燃料コックを「閉」の位置にしてください。



エンジン停止手順_005

1	燃料コック
A	「閉」
B	「開」

各部の操作方法

機械操作上の注意



どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

機械を離れるときの注意



機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

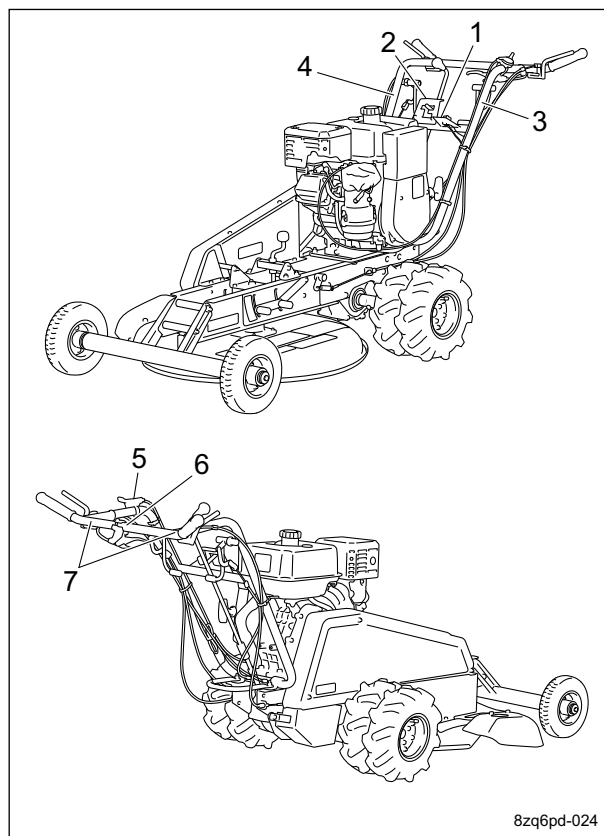


エンジンが確実に停止していることを確認してください。



ブレーキレバーがロックされていることを確認してください。


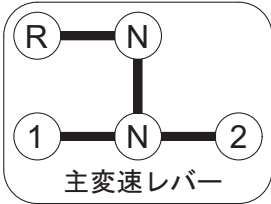
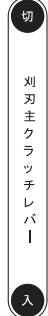
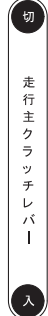
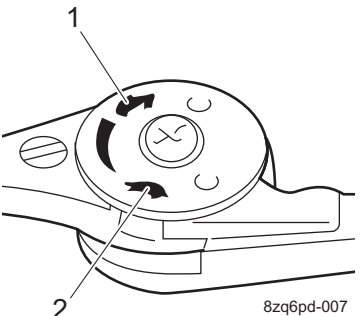
操作ラベルの説明



操作ラベルの説明_001

1	エンジンスイッチマーク
2	主変速レバーマーク
3	刈刃主クラッチレバーマーク
4	走行主クラッチレバーマーク
5	エンジン回転マーク
6	駐車ブレーキレバーマーク
7	操向クラッチレバーマーク

取り扱い説明

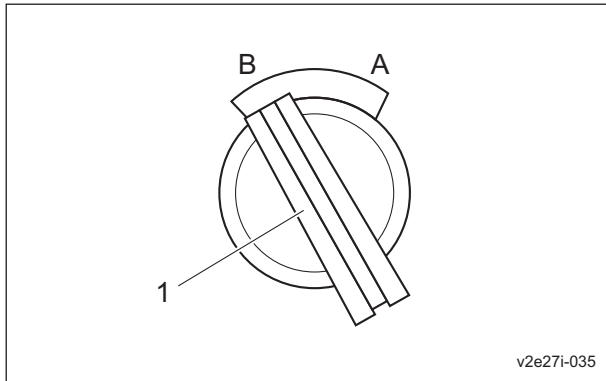
1	<p>K4203000680 エンジンスイッチマーク エンジンスイッチの位置を示しています。</p>	 <p>エンジンスイッチ OFF → ON</p> <p>8zq6pd-025</p>
2	<p>GM65AW-1007Z0 主変速レバーマーク 主変速レバーの位置を示しています。</p>	 <p>主変速レバー</p> <p>8zq6pd-026</p>
3	<p>K4203000180 刈刃主クラッチレバーマーク 刈刃主クラッチレバーの入・切を示しています。</p>	 <p>刈刃主クラッチレバー</p> <p>8zq6pd-027</p>
4	<p>K4203000280 走行主クラッチレバーマーク 走行主クラッチレバーの入・切を示しています。</p>	 <p>走行主クラッチレバー</p> <p>8zq6pd-028</p>
5	<p>- エンジン回転マーク エンジン回転速度の高速・低速を示しています。 1. 高速 2. 低速</p>	 <p>8zq6pd-007</p>

6	K4203000190 駐車ブレーキレバーマーク 駐車ブレーキレバーの位置を示しています。	 <p>駐車ブレーキ レバー</p> <p>8zq6pd-029</p>
7	K4203000150 操向クラッチレバーマーク 操向クラッチレバーの位置を示しています。	 <p>操 向 クラッチレバー</p> <p>8zq6pd-030</p>

取り扱い説明

エンジンスイッチ

エンジンスイッチは、ハンドルにあります。
エンジンを始動するときはスイッチを「ON」の位置にし、エンジンを停止するときはスイッチを「OFF」の位置にします。



エンジンスイッチ_001

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

ブレーキレバー

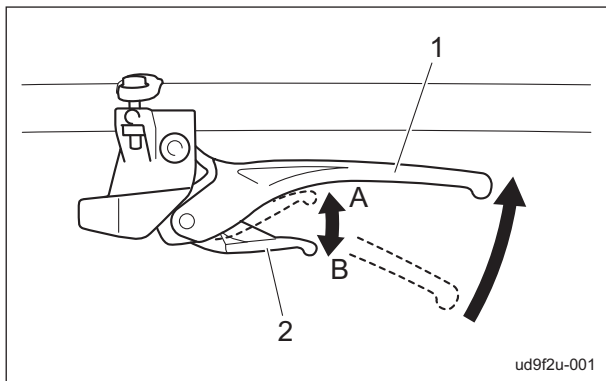
重要

走行中の駐車ブレーキ操作は、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。
駐車ブレーキレバーを操作するときは、走行主クラッチレバーを切ってください。

ブレーキレバーはハンドルにあります。
ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、ブレーキレバーがロックされます。
ロック解除レバーを握ると、ブレーキレバーのロックは解除されます。

参考：

駐車ブレーキとして使用することができます。



ブレーキレバー_001

1	ブレーキレバー
2	ロック解除レバー
A	ロック解除
B	ロック

走行主クラッチレバー

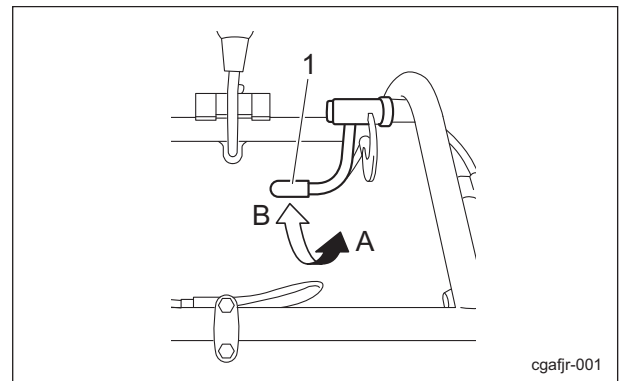
警告

後進時は、後方に障害物がないことを確認してください。
転倒したり、障害物にはさまれて、重大な事故につながります。

重要

走行主クラッチレバーは、チェンジレバーを作業や移動に適した位置に操作してから操作してください。

走行主クラッチレバーはハンドルにあります。
走行主クラッチレバーを手前に引くとテンションが入り走行します。
走行主クラッチレバーを押すとテンションが切れます。



走行主クラッチレバー_001

1	走行主クラッチレバー
A	入
B	切

チェンジレバー

警告

後進時は、後方に障害物がないことを確認してください。
転倒したり、障害物にはさまれて、重大な事故につながります。

注意

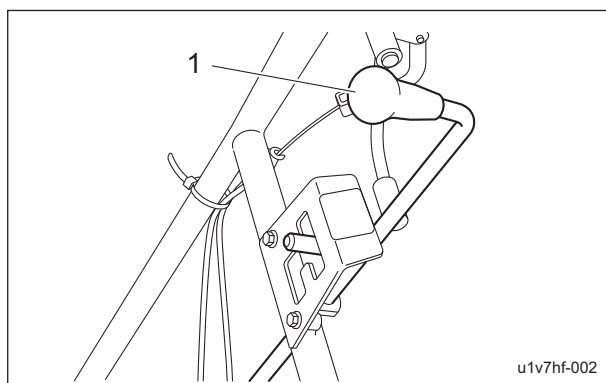
チェンジレバーは、平坦な場所で、走行主クラッチレバーを切ってから操作してください。

重要

ミッションが破損する恐れがありますので、走行中はチェンジレバーを切り替えないでください。

チェンジレバーはハンドルにある変速装置です。
作業や移動に適した任意の位置にレバーを倒してください。

前進	1 (低速)	2.5 km/h
	2 (高速)	4.0 km/h
後進	R	1.9 km/h
中立	N	-



チェンジレバー_001

1	チェンジレバー
---	---------

刈刃主クラッチレバー

危険

ナイフの回転している部分は危険ですので、手足や物を入れたり、触れたりしないでください。

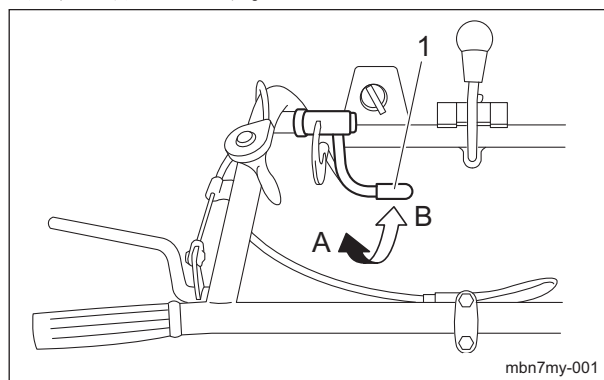
注意

刈刃主クラッチレバーは、刈り込む直前に入れ、それ以外のときは、必ず切っておいてください。

重要

刈刃主クラッチレバーはゆっくりと入れてください。
急激に入れると、エンストの原因になります。

刈刃主クラッチレバーはハンドルにあります。
刈刃主クラッチレバーを手前に引くとロータリーナイフが回転します。
刈刃主クラッチレバーを押すとロータリーナイフの回転が停止します。



刈刃主クラッチレバー_001

1	刈刃主クラッチレバー
A	入
B	切

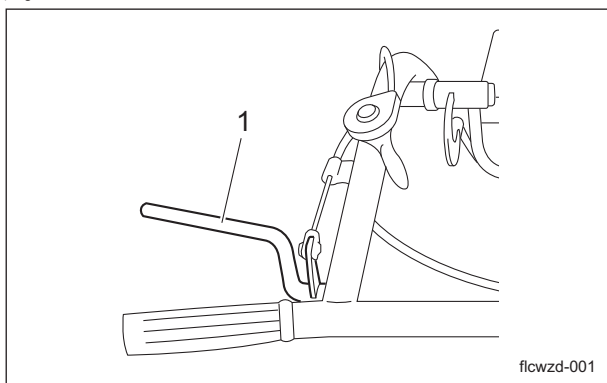
取り扱い説明

操向クラッチレバー

警告

旋回時は、周囲に障害物がないことを確認してください。
転倒したり、障害物にはさまれて、重大な事故につながります。

操向クラッチレバーはハンドルにあります。
旋回する側の操向クラッチレバーを握り、前輪を浮かせて旋回します。
右側の操向クラッチレバーを握ると右に旋回します。
左側の操向クラッチレバーを握ると左に旋回します。



操向クラッチレバー_001

1 操向クラッチレバー

移動

移動操作

警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

1. エンジンを始動します。
2. チェンジレバーを任意の位置にします。
3. ブレーキを解除します。
4. 走行主クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にします。
5. 発進し、移動できます。

刈り込み

傾斜地作業について

傾斜地作業を行うときは、以下のことに注意をして作業を行ってください。

- ・ 傾斜地では、特に作業前に穴・岩石・木の根・（その他不法投棄物）などが無いかを確認してそれらを取り除いてから、十分気をつけて作業をしてください。
- ・ 急傾斜地での転倒を防ぐために、斜面の一番下方から等高線に沿って作業し、順番に上方へ移動してください。
ただし、下方から作業できない場合は、傾斜角度の緩いところから等高線に沿って作業をしてください。
- ・ 旋回は、傾斜上方の操向クラッチレバーを握り、旋回してください。
- ・ 安全のために、機械が等高線に沿って停止するようにしてください。
- ・ 燃料は、早めに給油してください。

急傾斜地作業について

警告

20度以上の急傾斜地で使用の際は、以下のことを必ず守ってください。

- ・ 転倒やスリップの危険がある場所では、機械を運転しないでください。
- ・ 旋回は出来るだけ傾斜角度の緩い所で行ってください。
- ・ エンジンを焼き付きや磨耗から守るため、同方向での直進距離を20m以内として旋回してください。
- ・ エンジンオイルおよびエアクリーナのオイルは、3時間ごとに点検、補給を行い、エンジンを焼き付きや磨耗から守ってください。
- ・ 25度（使用最大傾斜地角度）以上の急傾斜地での作業は、横転の危険が非常に高いので使用しないでください。
- ・ 補助作業者を使ってロープなどで作業しますと、機械が許容以上の急傾斜地まで入り、横転の危険が増し、安全作業が出来なくなるので、メーカーとして禁止します。

刈り込み操作

警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

注意

刈り込み作業は、必ず場所にあった速さで行ってください。

凸凹面の刈り込みは、刈り込み速さを遅くして行ってください

1. エンジンを始動します。
2. ブレーキを解除します。
3. 刈刃主クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にし、ナイフを回転させます。
4. 走行主クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にし、刈り込みを始めます。

運搬

運搬方法

注意

機械を積み降ろしするときは、滑らない靴を着用し、ゆっくりと走行してください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ロープをエンジンに掛けないでください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ワイヤーを曲げないように注意してください。

本機をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。

積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。

トラックやトレーラーに積載して移動するときは、本機の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。

あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンス時の機械姿勢	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-3
規定値	Page 5-4
注油	Page 5-5
注油について	Page 5-5
注油位置	Page 5-5
ジャッキアップ	Page 5-6
ジャッキアップについて	Page 5-6
ジャッキアップポイント	Page 5-6
メンテナンス・モア	Page 5-7
ロータリーナイフの交換	Page 5-7
ロータリーナイフの研磨	Page 5-9
ロータリーナイフのバランス取り	Page 5-10
刈刃ギヤケースのグリース交換	Page 5-11
メンテナンス・本体	Page 5-11
タイヤの脱着	Page 5-11
ベルトの張り調整	Page 5-13
ブレーキの調整	Page 5-15
操向クラッチの調整	Page 5-15
エアクリーナーの交換	Page 5-15
エンジンオイルの交換	Page 5-16
ミッションオイルの交換	Page 5-16
シリンダーヘッドの清掃	Page 5-17
長期保管	Page 5-17
長期保管について	Page 5-17

メンテナンス

メンテナンス上の注意

⚠ 注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

⚠ 注意

メンテナンスをする際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

⚠ 注意

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。

純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

メンテナンス時の機械姿勢

重要

機械のメンテナンスを行うときなど、ハンドル側を下にして倒した姿勢で長時間放置すると、エンジンの燃焼室にエンジンオイルが入り、エンジン不調の原因となることがありますので注意してください。

また、ハンドルを立てた位置に戻してからオイルが戻るのに十分な時間を確保するため、10分たってからエンジンを始動してください。

メンテナンススケジュール

メンテナンススケジュールは、以下のとおりです。

○・・・点検、調整、補給、清掃

●・・・交換（初回）

△・・・交換

メンテナンス項目		作業前	作業後	5時間ごと	8時間ごと	10時間ごと	25時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	250時間ごと	300時間ごと	400時間ごと	500時間ごと	1年ごと	2年ごと	3年ごと	4年ごと	備考	
エンジン	各部の締め付け	○																		
	燃料	○																		
	燃料漏れ・油漏れ	○																		
	エアクリーナー	○																	エレメントは必要に応じて交換	
	エンジンオイル	○		●			△												5h（初回） *1	
	点火プラグ								○										必要に応じて交換	
	燃料ストレーナー								○											
	燃料ホース																	○		
	燃焼室												○							*2
	燃料タンク・燃料ろ過網												○							*2
	バルブのすき間												○							*2
	外観清掃		○																	
本体	各部の締め付け	○																		
	電気配線														○					
	ナイフ	○																		
	ナイフ取り付けボルト	○																		
	作業高さ（刈高）	○																		
	刈刃ギヤケースのグリース												△		△				300hまたは1年の早い時期	
	注油							○												
	タイヤ	○																		
	Vベルト	○								△					△				200hまたは1年の早い時期	
	ブレーキ	○																		
	ブレーキワイヤー	○																		
	スロットルワイヤー	○																		
操向クラッチワイヤー	○																			
防護カバー	○																			

メンテナンス

メンテナンス項目		作業前	作業後	5時間ごと	8時間ごと	10時間ごと	25時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	250時間ごと	300時間ごと	400時間ごと	500時間ごと	1年ごと	2年ごと	3年ごと	4年ごと	備考
本体	ベルトカバー	○																	
	油漏れ	○																	
	ミッションオイル							●							△				50h (初回)
	外観清掃		○																

- ・ エンジンのメンテナンスについては、エンジンの取扱説明書を参照ください。
- ・ *1 のエンジンオイルの交換スケジュールは、過酷な条件下で使用されるため、エンジンの取扱説明書と異なる場合があります。
- ・ 消耗品については、保証値ではありません。
- ・ *2 の点検整備は、お近くの販売店に相談の上、その指示に従ってください。

規定値

燃料タンク容量	6.0 dm ³ (6.0 L)	ガソリン
エンジンオイル容量	1.0 dm ³ (1.0 L)	SAE30 (API サービス分類 SE 級以上)
ミッションオイル容量	0.8 dm ³ (0.8 L)	SAE90
スパークプラグ	-	NGK BP5ES
タイヤ空気圧	前輪	350 kPa (3.5 kgf/cm ²)
	後輪	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)
刈刃ギアケースグリース量	140 - 150 g	パイロノック CC0 号
走行用ベルト	5.0 mm	ベルトのプーリー間の中央を 25 N (2.5 kgf) で押す
	41.0 mm	U フックバネのコイル部分の長さ
刈刃用ベルト	20.0 mm	ベルトのプーリー間の中央を 25 N (2.5 kgf) で押す
	47.0 mm	U フックバネのコイル部分の長さ

注油

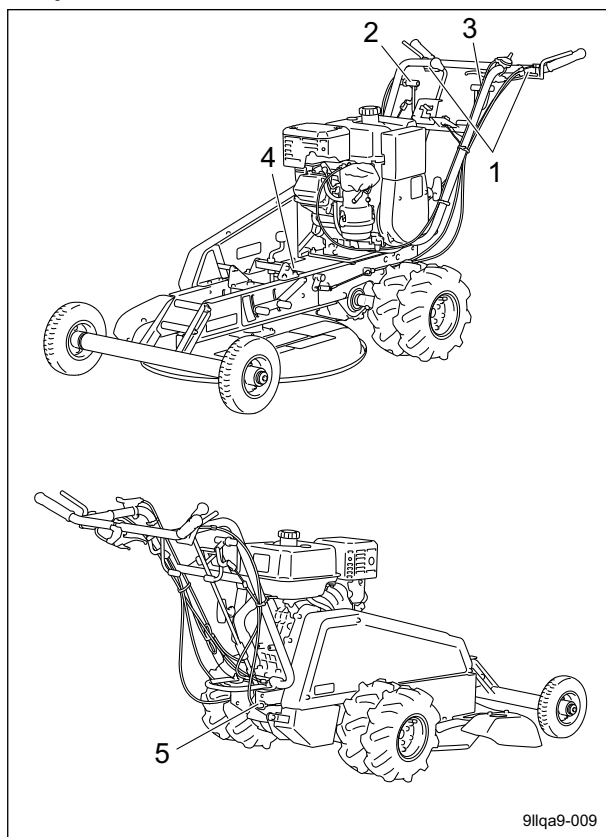
注油について

可動部が固着したり、破損したりする可能性がありますので、潤滑剤を塗布する必要があります。潤滑剤を使用する場所は、「注油位置」に記載されています。

潤滑剤を塗布してください。

注油位置

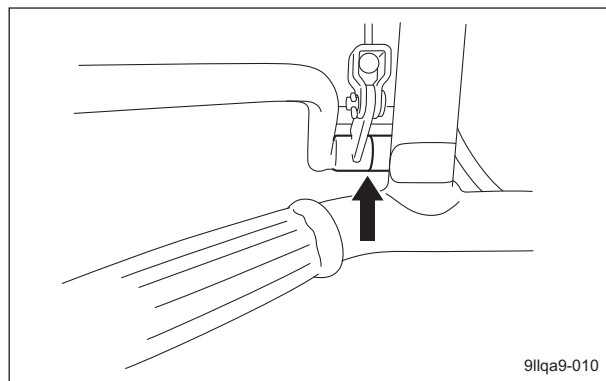
次の場所に 50 時間ごとに潤滑剤を塗布してください。



注油位置_001

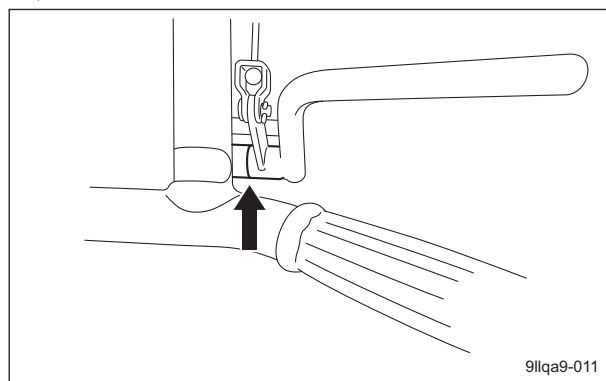
	部位	注油箇所数
1	操向クラッチレバー軸部	2
2	走行クラッチレバー軸部	1
3	刈刃クラッチレバー軸部	1
4	刈刃テンション軸部	2
5	走行テンション軸部	2

1. 操向クラッチレバー軸部
左右 1 か所ずつあります。
左側



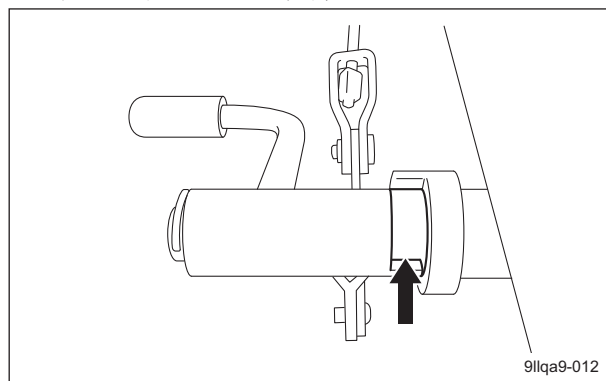
注油位置_002

右側



注油位置_003

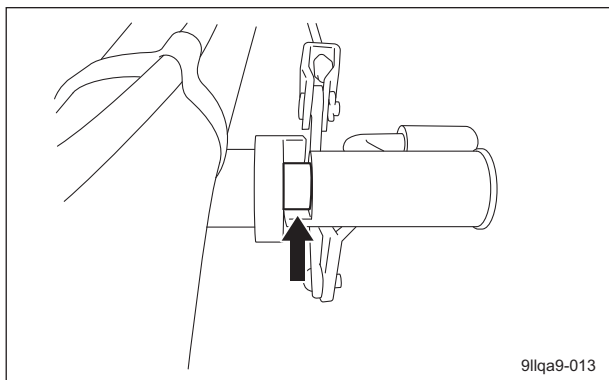
2. 走行クラッチレバー軸部



注油位置_004

メンテナンス

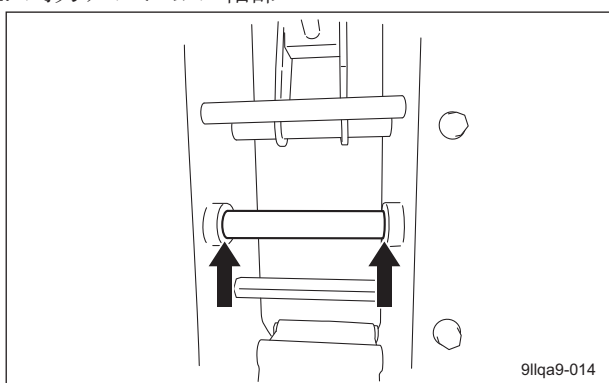
3. 刈刃クラッチレバー軸部



注油位置_005

9llqa9-013

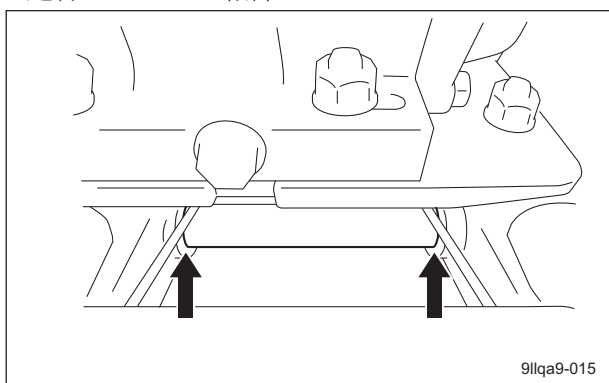
4. 刈刃テンション軸部



注油位置_006

9llqa9-014

5. 走行テンション軸部



注油位置_007

9llqa9-015

ジャッキアップ

ジャッキアップについて

⚠ 警告

タイヤ交換などの整備や修理を行う場合は、必ず輪止めなどをして、本機が動かないようにしてください。

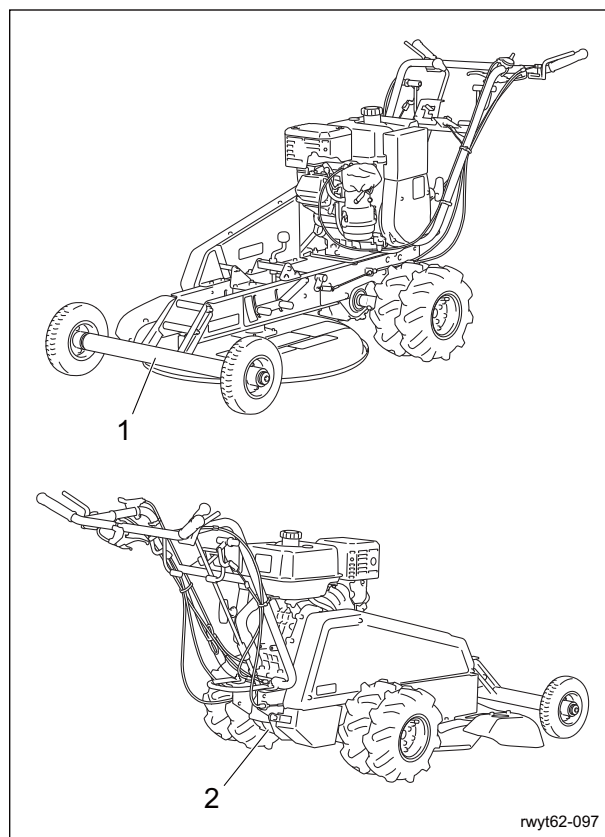
機械をコンクリートなどの堅い平らな床に確実に駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作業の妨げになる障害物を取り除いてください。必要に応じ、適切なチェーンブロックやホイスト、およびジャッキを使用してください。

持ち上げている機械は、ジャッキスタンドや適切なブロックを使用し、確実に支えてください。ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確実に支えられていない場合は、機械が動いたり、落ちたりする恐れがあります。人身事故の原因となります。

機械をジャッキアップする場合は、ジャッキアップポイントに記載してある位置で行ってください。指示された位置以外では、ジャッキアップしないでください。

フレームや部品が破損する恐れがあります。

ジャッキアップポイント



ジャッキアップポイント_001

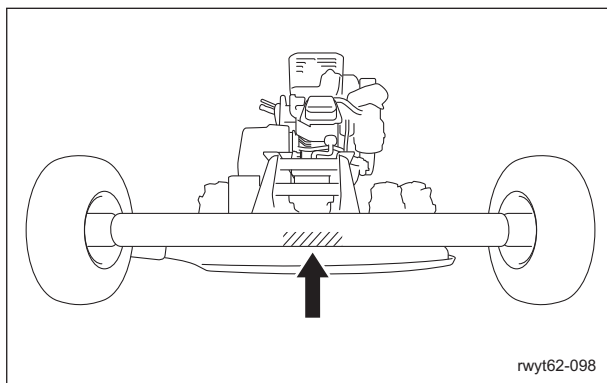
rwy162-097

	ジャッキアップポイント
1	前輪取り付け部
2	ギヤケース Assy 下部

1. 前輪取り付け部

注意

前輪取り付け部の中央部にジャッキを確実にかけてください。

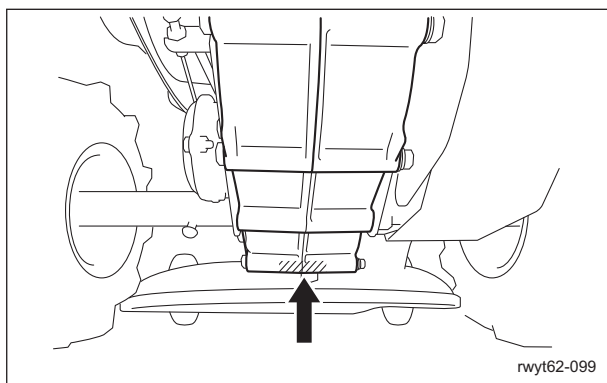


ジャッキアップポイント_002

2. ギヤケース Assy 下部

注意

ギヤケース Assy 下部の中央部にジャッキを確実にかけてください。



ジャッキアップポイント_003

メンテナンス・モア

ロータリーナイフの交換

危険

ロータリーナイフは刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

危険

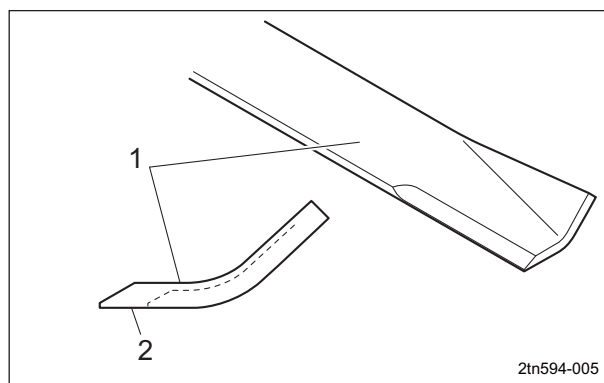
ロータリーナイフは、摩耗が進んだり、破損したりした場合は、セイル部と平坦部との間に割れ目やちぎれが発生します。ロータリーナイフが回転中にちぎれて飛び出す場合がありますので、十分に気をつけてください。

注意

刃物に触れる場合は、手を切る恐れがありますので、手袋を着用してください。

注意

ロータリーナイフには向きがあります。取り付ける場合は、向きを間違えないように注意してください。



ロータリーナイフの交換_001

1	ロータリーナイフ上側
2	ロータリーナイフ下側

メンテナンス

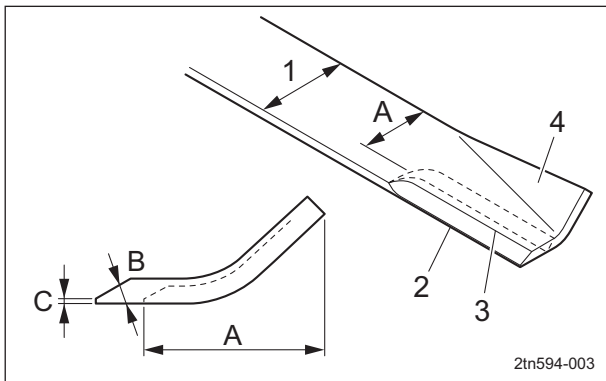
重要

ロータリーナイフは、取り付ける前にバランスがとれていることを確認してください。

ロータリーナイフは、刃先が欠けたり、薄くなった場合は、新しいロータリーナイフに交換してください。

ロータリーナイフの交換の基準は、以下のとおりです。

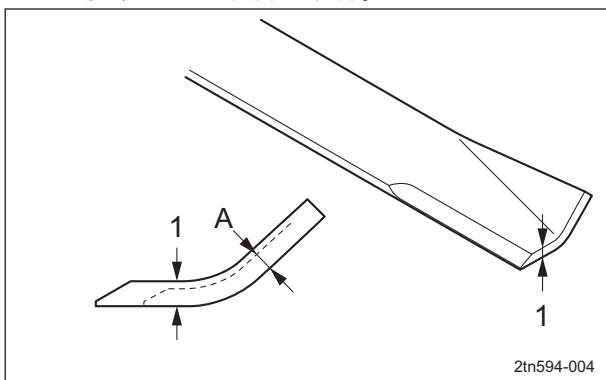
1. ロータリーナイフの最も幅の狭い場所が、新品の全幅の 2/3 未満の場合。



ロータリーナイフの交換_002

1	全幅
2	刃先
3	刃元
4	セイル部
A	2/3 未満
B	30 - 40°
C	0.5 - 1.0 mm

2. ロータリーナイフの最も薄い場所の板厚が、新品の板厚の 1/3 未満の場合。



ロータリーナイフの交換_003

1	板厚
A	1/3 未満

ロータリーナイフの取り外し

⚠ 危険

ロータリーナイフは刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切る恐れがありますので、手袋を着用してください。

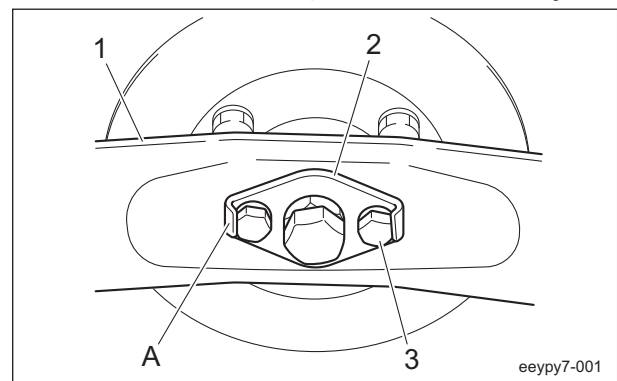
⚠ 注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下の危険があります。確実に機械をサポートしてください。

⚠ 注意

ボルトを緩めるとロータリーナイフが落下する恐れがありますので、十分注意して作業してください。

1. ロック座金の折り曲げを開いてください。
2. ロータリーナイフを取り付けている 2 本のボルトを取り外してください。
3. ロック座金を取り外してください。
4. ロータリーナイフを取り外してください。



ロータリーナイフの取り外し_001

1	ロータリーナイフ
2	ロック座金
3	ボルト
A	折り曲げ

ロータリーナイフの取り付け

警告

ロック座金を確実に装着してください。
ボルトの緩みの原因となります。

注意

締め付けトルク一覧を参照してください。
異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

注意

ロータリーナイフには向きがあります。
取り付ける場合は、向きを間違えないように注意してください。

重要

ロータリーナイフは、取り付ける前にバランスがとれていることを確認してください。

重要

ナイフ取り付けボルトの締め付けトルクは、104 - 134 N-m (1,060.49 - 1,366.40 kgf-cm) です。

取り付けは、取り外しの逆の方法で行ってください。

ロータリーナイフの研磨

危険

ロータリーナイフは刃物です。
手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

危険

ロータリーナイフは、摩耗が進んだり、破損した場合は、セイル部と平坦部との間に割れ目やちぎれが発生します。
ロータリーナイフが回転中にちぎれて飛び出す場合がありますので、十分に気をつけてください。

警告

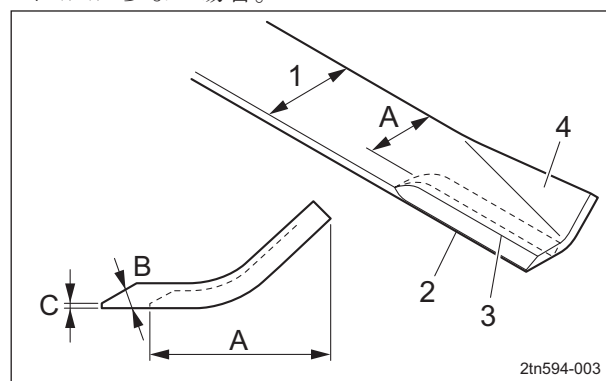
ロータリーナイフはバランスが崩れたまま使用すると、振動が出て機械が破損する恐れがあります。

注意

ロータリーナイフの研磨は、必ず保護メガネ、手袋を着用して行ってください。

ロータリーナイフの研磨とは、ロータリーナイフの刃先が丸みを帯びて切りづらくなった場合、刃先の減ったところをグラインダーまたは、サンダーにて削り、研ぐ作業のことです。
刃先が欠けたり、薄くなった場合は、新しいロータリーナイフに交換してください。
ロータリーナイフの研磨が行える基準は、以下のとおりです。

1. 研磨後、ロータリーナイフの刃先までの幅が、新品の全幅の 2/3 以上残る場合。
2. 研磨後、ロータリーナイフの刃元が、セイル部にかからない場合。

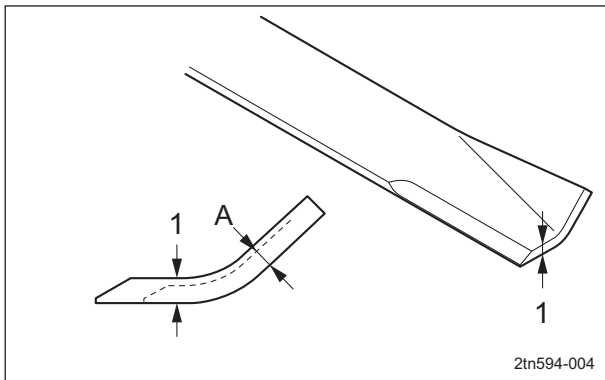


ロータリーナイフの研磨_001

メンテナンス

1	全幅
2	刃先
3	刃元
4	セイル部
A	2/3 以上
B	30 - 40°
C	0.5 - 1.0 mm

3. ロータリーナイフの最も薄い場所の板厚が、新品の板厚の 1/3 以上残っている場合。



ロータリーナイフの研磨_002

1	板厚
A	1/3 以上

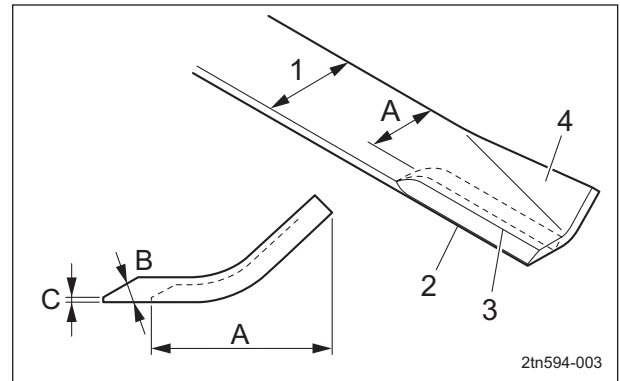
ロータリーナイフの研磨は、以下の手順で行ってください。

1. ロータリーナイフを本機から取り外してください。
「ロータリーナイフの交換」(Page 5-7)

重要

研磨は、刃先の上面のみに行い、刃先の元々の角度を変えないように注意してください。ロータリーナイフの左右を均等に削れば、バランスを狂わすことなく研磨を行うことができます。

2. ロータリーナイフの研磨は刃先をグライダーで研磨してください。
刃先の角度は 30 - 40°、刃の先端の厚みは 0.5 - 1.0 mm とし、刃元がセイル部にかからないように研磨してください。



ロータリーナイフの研磨_003

1	全幅
2	刃先
3	刃元
4	セイル部
A	2/3 以上
B	30 - 40°
C	0.5 - 1.0 mm

3. バランス取りを行ってください。
「ロータリーナイフのバランス取り」(Page 5-10)
4. バランスが取れていない場合は、2. - 3. を繰り返し行ってください。

ロータリーナイフのバランス取り

⚠ 危険

ロータリーナイフは刃物です。
手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

⚠ 危険

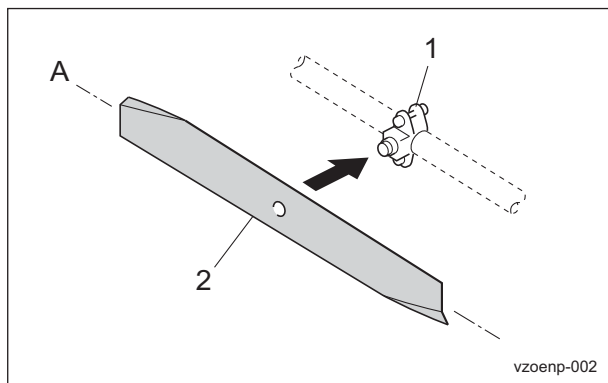
ロータリーナイフはバランスが崩れたまま使用すると、振動が出て機械が破損する恐れがあります。

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切る恐れがありますので、手袋を着用してください。

バランス取りとは、ロータリーナイフが片減りして振動が出たり、切れ味が悪くなり研磨した場合に、ロータリーナイフを機械から取り外してバランスを取る作業のことです。
ロータリーナイフのバランス取りは、以下の手順で行ってください。

1. ロータリーナイフを本機から取り外してください。
「ロータリーナイフの交換」(Page 5-7)
2. バランス取り装置を適当な場所に取り付けてください。
3. ロータリーナイフの中央の穴をバランス取り装置にはめ込み、ロータリーナイフが水平になるように左右のバランスを取ってください。



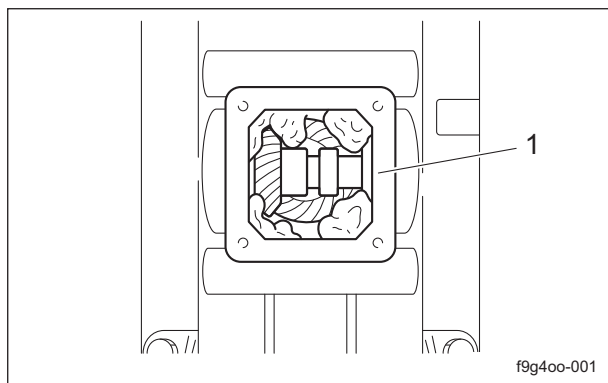
ロータリーナイフのバランス取り_001

1	バランス取り装置
2	ロータリーナイフ
A	水平

刈刃ギヤケースのグリース交換

刈刃ギヤケース内のグリースは、300 時間または1 年ごと交換してください。

グリースの種類	パイロロック CC0 号
グリースの量	140 - 150 g



刈刃ギヤケースのグリース交換_001

1	刈刃ギヤケース
---	---------

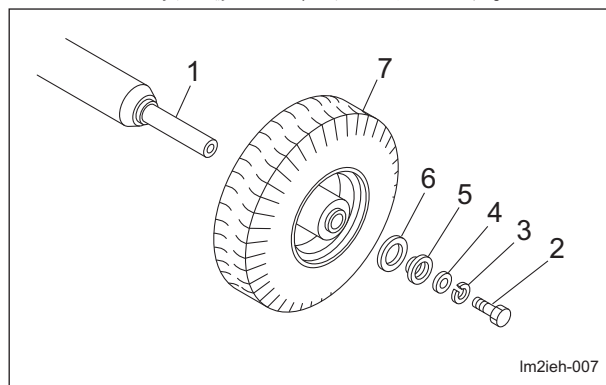
メンテナンス・本体

タイヤの脱着

前輪タイヤ

前輪タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. 前輪取り付け部のジャッキアップポイントに確実にジャッキをかけ、タイヤが浮くまで上げます。
「ジャッキアップポイント」(Page 5-6)
2. 前輪取り付け軸のボルト、S ワッシャー、座金、車軸カラー、防塵シールを取り外します。
3. タイヤを引き抜いて、取り外します。



前輪タイヤ_001

1	前輪取り付け軸
2	ボルト
3	S ワッシャー
4	座金
5	車軸カラー
6	防塵シール
7	前輪タイヤ

注意

締め付けトルク一覧表を参照してください。異常な締め付け、オーバートルクでの締め付け等で生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

重要

タイヤには向きがあります。取り付ける場合は、空気注入口を外側にしてタイヤを取り付けてください。

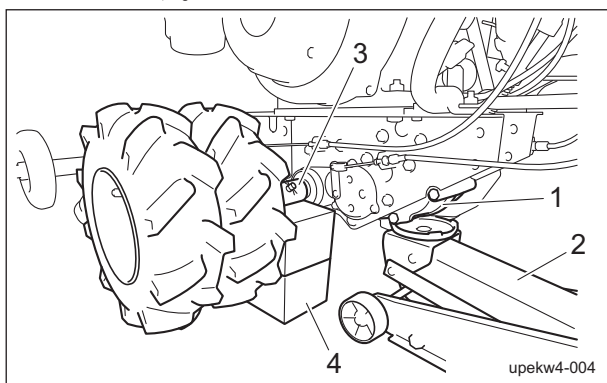
前輪タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

メンテナンス

後輪タイヤ

後輪タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

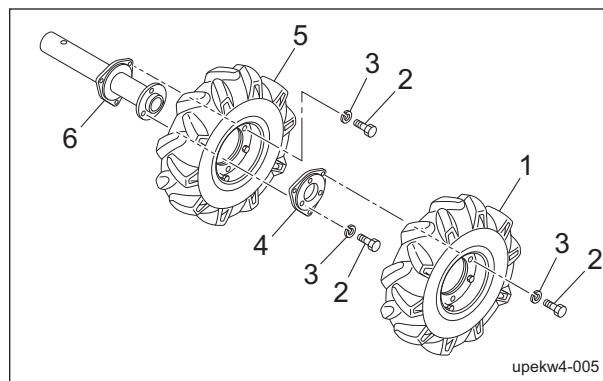
1. 駐車ブレーキをかけます。
2. ギヤケース Assy 下部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、タイヤが浮くまで上げます。
「ジャッキアップポイント」(Page 5-6)
3. 後輪取り付け軸の下に木片を置き、本機を安定させます。



後輪タイヤ_001

1	ギヤケース Assy
2	ジャッキ
3	後輪取り付け軸
4	木片

4. 外側のタイヤを取り付けているボルト、S ワッシャー各 3 本を取り外し、外側のタイヤを取り外します。
5. 外車輪取り付け座を取り付けているボルト、S ワッシャー各 3 本を取り外し、外車輪取り付け座を取り外します。
6. 内側のタイヤを取り付けているボルト、S ワッシャー各 3 本を取り外します。
7. 内側のタイヤを取り外します。



後輪タイヤ_002

1	後輪タイヤ (外側)
2	ボルト
3	S ワッシャー
4	外車輪取り付け座
5	後輪タイヤ (内側)
6	内車輪取り付け座

後輪タイヤの取り付けは、以下の手順で行います。

⚠ 注意

締め付けトルク一覧表を参照してください。
異常な締め付け、オーバートルクでの締め付け等で生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

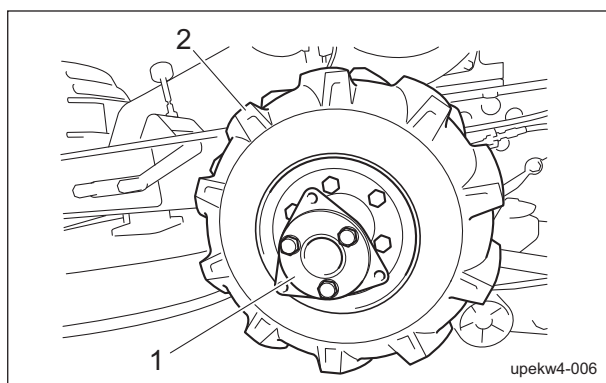
重要

外車輪取り付け座には向きがあります。
丸い段がある面を外側にして取り付けてください。

重要

タイヤには向きがあります。
取り付ける場合は、空気注入口の向きに注意してください。

- ・ 内側タイヤ=内向き
- ・ 外側タイヤ=外向き

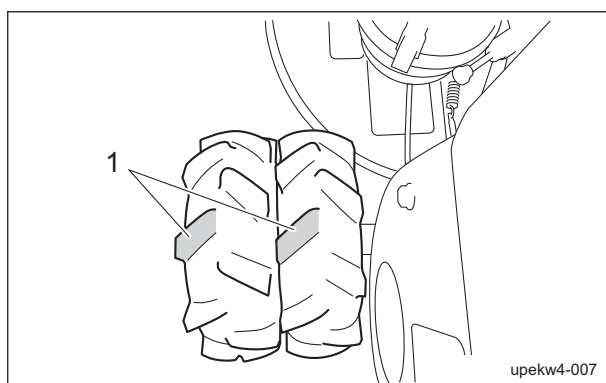


後輪タイヤ_003

1	外車輪取り付け座
2	後輪タイヤ (内側)

重要

内側のタイヤと外側のタイヤのラグの位置を一致させて取り付けてください。



後輪タイヤ_004

1	ラグ
---	----

後輪タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

ベルトの張り調整**注意**

ベルトの調整を行う場合は、必ずエンジンを停止させて行ってください。

重要

ベルトの張りは、規定値を確認してください。

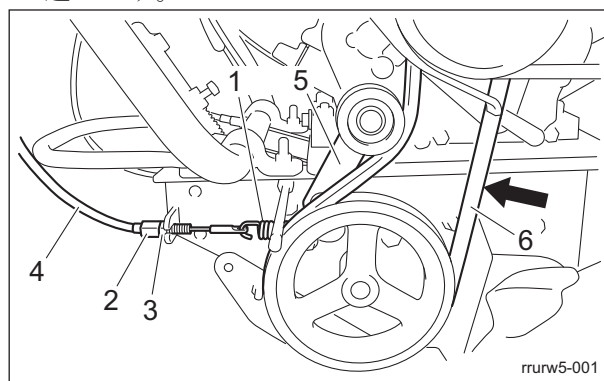
使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。
また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。
必要に応じて調整し、いつも適切な張り具合に保ってください。

走行用ベルト**注意**

ベルトの調整を行う際は、必ずエンジンを停止させて行ってください。

走行主クラッチレバーを入れたり切ったりして、以下のことを確認してください。

- ・テンションレバーが正常に動くこと。
 - ・Uフックバネが適正に張られていること。
1. 走行主クラッチレバーを「入」の位置にし、ベルトの張り具合を確認してください。
ベルトの張りは、ベルトのプーリー間の中央（イラストの矢印部）を指で軽く 25 N (2.5 kgf) で押さえて 5.0 mm たわむ程度であれば適正です。

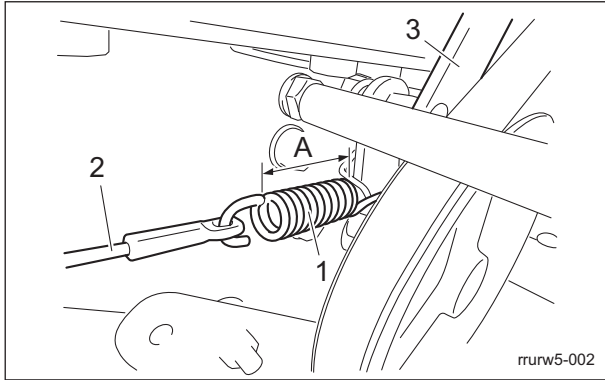


走行用ベルト_001

1	Uフックバネ
2	アジャストボルト
3	ナット
4	走行ワイヤー
5	テンションレバー
6	走行用ベルト

メンテナンス

2. ベルトがたわみ過ぎている場合は、走行ワイヤーのナットを緩め、アジャストボルトで調整します。
 走行主クラッチレバーを「入」の位置にし、Uフックバネのコイル部分の長さが 41.0 mm になるように調節した後、ナットで固定してください。



走行用ベルト_002

1	Uフックバネ
2	走行ワイヤー
3	テンションレバー
A	41.0 mm

3. 2の調整後は、再度ベルトの張り具合を確認してください。
 ベルトの張りが適正値でない場合は、ベルトを新品と交換してください。

刈刃用ベルト

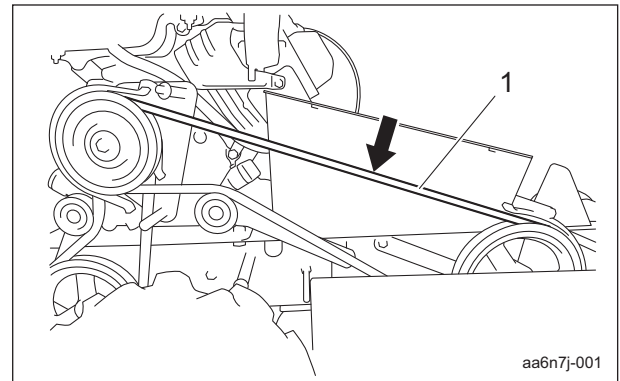
⚠ 注意

ベルトの調整を行う際は、必ずエンジンを停止させて行ってください。

刈刃主クラッチレバーを入れたり切ったりして、以下のことを確認してください。

- ・テンションレバーが正常に動くこと。
- ・Uフックバネが適正に張られていること。

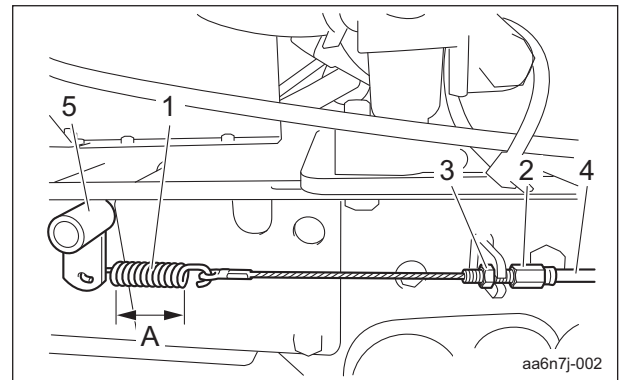
1. 刈刃主クラッチレバーを「入」の位置にし、ベルトの張り具合を確認してください。
 ベルトの張りは、ベルトのプーリー間の中央（イラストの矢印部）を指で軽く 25 N (2.5 kgf) で押さえて 20.0 mm たわむ程度であれば適正です。



刈刃用ベルト_001

1	刈刃用ベルト
---	--------

2. ベルトがたわみ過ぎている場合は、刈刃ワイヤーのナットを緩め、アジャストボルトで調整します。
 調整する刈刃ワイヤーは刈刃用ベルトの反対側にあります。
 刈刃主クラッチレバーを「入」の位置にし、Uフックバネのコイル部分の長さが 47.0 mm になるように調節した後、ナットで固定してください。



刈刃用ベルト_002

1	Uフックバネ
2	アジャストボルト
3	ナット
4	刈刃ワイヤー
5	テンションレバー
A	47.0 mm

3. 2の調整後は、再度ベルトの張り具合を確認してください。
 ベルトの張りが適正値でない場合は、ベルトを新品と交換してください。

ブレーキの調整

⚠ 危険

ブレーキワイヤーが切れると、本機は停止不能となり大変危険です。
亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

⚠ 危険

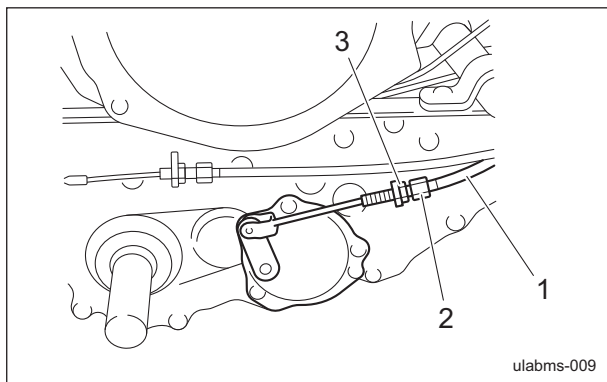
ブレーキをかけても、ブレーキの効きが悪くなったら、ブレーキワイヤーの調整をしてください。

⚠ 注意

ワイヤーの引きすぎは、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。

ブレーキは、ブレーキワイヤーのアジャストボルトで調整してください。

1. ブレーキレバーをロックしてください。
2. ロックナットを緩め、アジャストボルトをブレーキが効く位置に調整し、ロックナットを確実に締め付けてください。
3. ブレーキレバーのロックを解除したときに、ブレーキシューがブレーキドラムに当たっていないことを確認してください。
ブレーキの引きずりを防止します。
4. ブレーキレバーを握り、ロックできるか確認してください。



ブレーキの調整_001

1	ブレーキワイヤー
2	アジャストボルト
3	ロックナット

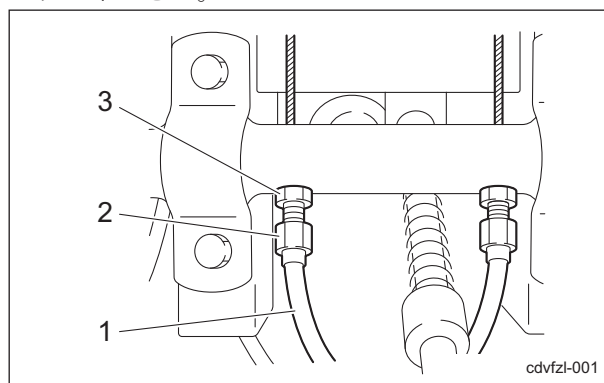
操向クラッチの調整

⚠ 注意

ワイヤーの引きすぎは、クラッチ破損の原因になります。

操向クラッチは、操向クラッチワイヤーのアジャストボルトで調整してください。

1. ロックナットを緩め、アジャストボルトを左に回してクラッチワイヤーを張り、クラッチが効く位置に調整し、ロックナットを確実に締め付けてください。



操向クラッチの調整_001

1	クラッチワイヤー
2	アジャストボルト
3	ロックナット

参考：

アジャストボルトは、右側がクラッチワイヤー左、左側がクラッチワイヤー右です。

2. 操向クラッチレバーを握り、操向クラッチが効くことを確認してください。

エアクリーナーの交換

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。

1. エアクリーナーエレメントの交換時期は、以下のとおりです。
 - [1] エアクリーナーエレメントは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。
 - [2] 汚れの多い場合は、規定時間に達していなくても交換してください。
2. エアクリーナーエレメントの交換は、エアクリーナーの清掃と同様の手順で行ってください。
「エアクリーナーの清掃」(Page 4-4)

メンテナンス

エンジンオイルの交換

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

警告

エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をする恐れがありますので、十分注意してください。

重要

エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

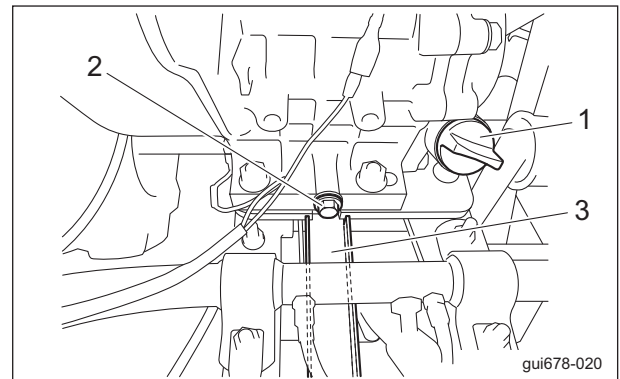
オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止してください。
2. 排油樋（付属品）をセットしてください。
3. エンジンオイルが温まっている間にドレンプラグを取り外し、エンジンオイルを容器に抜き取ってください。
4. ドレンプラグをエンジンに再度取り付けてください。
5. オイルレベルゲージを取り外してください。
6. オイル注入口から新しいエンジンオイルを入れてください。

エンジンオイル量は、1.0 dm³ (1.0 L) です。

7. エンジンを水平な状態にし、注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



エンジンオイルの交換_001

1	オイルレベルゲージ（オイル注入口）
2	ドレンプラグ
3	排油樋

8. オイルレベルゲージで量を確認した後、不足していれば追加してください。
9. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。

ミッションオイルの交換

警告

ミッションオイルを交換する場合は、ミッションオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をする恐れがありますので、十分注意してください。

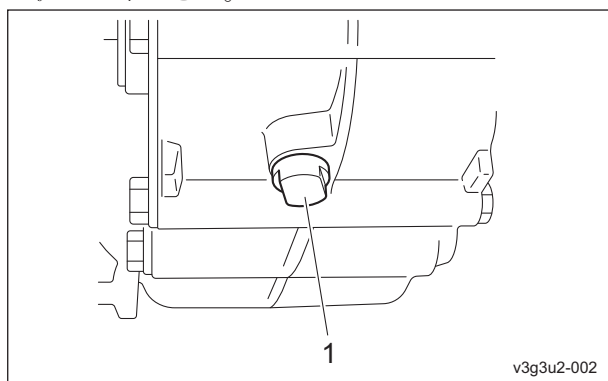
重要

ミッションオイルは、自動車用ギヤオイルで、SAE 粘度分類の 90 番を使用してください。

ミッションオイルは、一回目は使用 50 時間後に、その後は 1 年ごとに全量交換してください。

1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを止めてください。

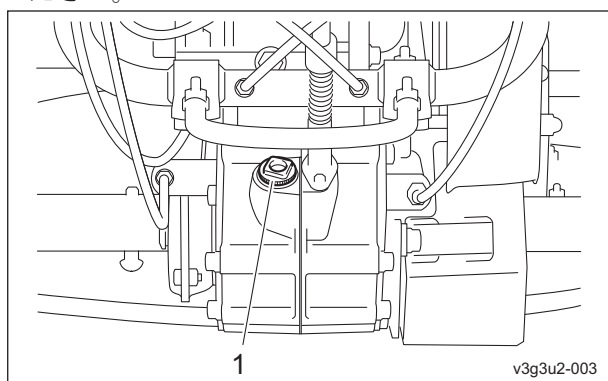
2. ミッションオイルが温まっている間に排油栓を取り外し、ミッションオイルを容器に抜き取ってください。



ミッションオイルの交換_001

1	排油栓
---	-----

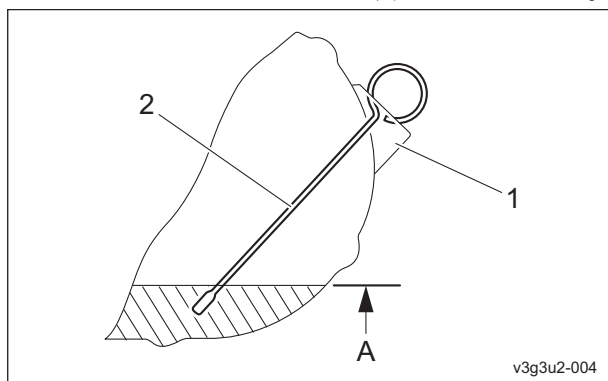
3. 排油栓を再度取り付け、注油栓を取り外してください。



ミッションオイルの交換_002

1	注油栓
---	-----

4. 注油口より、新しいミッションオイルを入れてください。
ミッションオイル量は、0.8 dm³ (0.8 L) です。
5. 付属のオイルゲージで、ミッションオイルが既定量まで入っていることを確認してください。



ミッションオイルの交換_003

1	注油口
2	オイルゲージ (付属品)
A	既定量

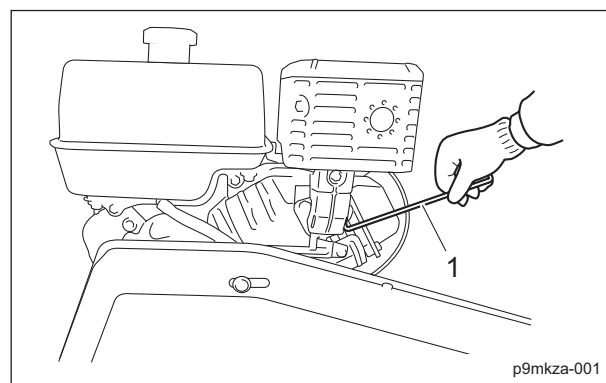
6. 注油栓を取り付けてください。

シリンダーヘッドの清掃

シリンダーヘッドに刈草がつまると、エンジンがオーバーヒートする場合がありますので、シリンダーヘッド掃除金 (附属工具) で取り除いてください。

⚠ 注意

ヤケドをする恐れがありますので過熱部が十分冷めるのを待って取り除いてください。



シリンダーヘッドの清掃_001

1	シリンダーヘッド掃除金
---	-------------

長期保管

長期保管について

- ・ 泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてください。
- ・ 各注油箇所へグリース注入、塗布と、注油をしてください。

BARONESS[®]
Quality on Demand



株式会社 共 栄 社

〒442-8530
愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (0533) 84-1221
FAX (0533) 84-1220